豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

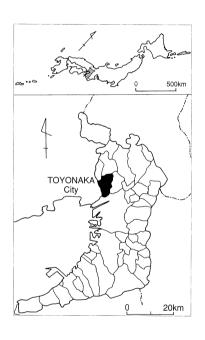
平成19年度(2007年度)

平成20年(2008年)3月

豊中市教育委員会

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 19 年度 (2007年度)



平成 20年 (2008年) 3月

豊中市教育委員会

序文

豊中市は大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県に接しています。県境を流れる猪名川から常に豊かな水がもたらされ、北方の千里丘陵にかつて広大な森林をひかえたこの地では、古くから人々の生活の場が育まれ、多くの歴史的遺産を受け継いできました。一方、商都大阪に隣接する関係などから、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。しかし、近年では開発の勢いが落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性をふまえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。本書は、平成19年度に調査を実施した小曽根遺跡、豊島北遺跡、本町遺跡、穂積遺跡、桜塚古墳群、および各遺跡における確認調査に加え、平成18年度後期に調査を実施した原田遺跡、および各遺跡における確認調査の成果も合わせて掲載しました。原田城跡(北城)主郭内で実施した原田遺跡では、城跡関連の遺構が確認され、豊島北遺跡では遺跡の範囲拡大の契機となり、本町遺跡では古墳時代の住居跡が密集した状態で発見されるなど、各遺跡で新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、工事関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

平成20年(2008年)3月31日

豊中市教育委員会 教育長 山 元 行 博

例 言

- 1. 本書は、平成19年度国庫補助事業 (総額7,000,000円、国庫50%、市費50%)として計画、 実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また、平成18年度国庫補助事業と して実施した原田遺跡第9次調査の成果を併せて収録するものである。
- 2. 平成19年度事業として、平成19年4月5日から平成20年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
- 3. 発掘調査は、本市教育委員会地域教育振興課文化財保護係が実施した。
- 4. 本書の作成にあたり、各章の執筆は各調査担当者が実施した。また、第\m\章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。 なお、全体の編集を陣内が行なった。
- 5. 各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を、また表記のないものは、 略北を示す。
- 6. 挿図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準土色帖 1994年版』に基づく。
- 7. 挿図に掲載した出土遺物の縮尺は原則として1:4、または1:3とする。
- 8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただいた。併せてここに明記し、深謝いたします。

平成18年度(平成19年1月以降)発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
原田遺跡	第9次	曽根西町4丁目21-7他	15 m²	橘田正徳	2007年2月1日 ~2007年3月2日

平成19年度発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
小曽根遺跡	第28次	北条町1丁目297-6	28 m²	陣内高志	2007年5月22日 ~2007年6月22日
豊島北遺跡	第4次	曽根東町5丁目82-1	261.3 m ²	橘田正徳	2007年6月7日 ~2007年7月31日
本町遺跡	第34次	本町2丁目14-1	62.0 m²	清水 篤	2007年7月23日 ~2007年8月18日
穂積遺跡	第36次	服部元町1丁目118,118-2	250 m²	橘田正徳	2007年8月27日 ~2007年10月23日
桜塚古墳群	第10次	曽根東町1丁目66-3	9.0 m²	清水 篤	2007年9月10日 ~2007年9月14日

目 次

第1章 位置と環境	(陣内)
1. 地理的環境 ······	
2. 歴史的環境 ······	
第Ⅱ章 原田遺跡第9次調査	(橘田)
1. 調査の経緯	
2. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(1) 基本層序	5
(2) 第1トレンチの様相	
(3) 第2トレンチの様相	
3. まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
第Ⅲ章 小曽根遺跡第28次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	
2. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
(1)遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
(2) 基本層序	
(3) 検出した遺構	
(4) 出土遺物	17
3. まとめ	18
第Ⅳ章 豊島北遺跡第4次調査	(橘田)
1. 調査の経緯	
2. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 基本層序	
(2) 検出した遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3. まとめ	
第 ₹章 本町遺跡第34次調査	(清水)
1. 調査の経緯	
2. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 基本層序	
(2) 検出した遺構と遺物	
3. まとめ	
第Ⅵ章 穂積遺跡第36次調査	(橘田)
1. 調査の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 基本層序	
(2) 西部建物群の様相 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(3) 東部建物群の様相	
3. まとめ	
第Ⅲ章 桜塚古墳群第10次調査	(清水)
1. 調査の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
2. 調査の概要	
第Ⅲ章 確認調査の成果	(浅田)
確認調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57

挿 図 · 表 目 次

(第 I 章 位	置と環境)
第1図	市内遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第2図	調査地点と周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
(第Ⅱ章 原	田遺跡第9次調査)
第3図	調査地位置図(1:5,000)5
第4図	トレンチ位置図 (1:400) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第5図	第1トレンチ壁面断面・1-2層平面図 (1:40) ・・・・・・・7
第6図	第1トレンチ壁面土層注記8
第7図	2、3-1・2・4層平面図 (1:40)9
第8図	3-5、4層平面図 (1:40)10
第9図	土坑 2 平面図 (1:10)11
第10図	第1トレンチ出土遺物 (1:3)12
第11図	第2トレンチ平面・断面図 (1:40) ・・・・・・・・・13
(第Ⅲ章 小	曽根遺跡第28次調査)
第12図	調査範囲図(1:200)
第13図	調査地位置図(1:5,000)15
第14図	調査区平面・断面図 (1:40) ・・・・・・・・16
第15図	出土遺物(1:4)18
	島北遺跡第4次)
第16図	調査範囲図(1:200)・・・・・・19
第17図	調査地位置図(1:5,000) ・・・・・・・・・19
第18図	包含層出土遺物図 (1:3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第19図	調査区平面・断面図 (1:100) ・・・・・・・・・21~22
第20図	建物 1 平面・断面図 (1:40)23
第21図	土坑 2 · 6 断面図 (1:15) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第22図	土坑 2 · 6 出土遺物 (1:3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第23図	土坑 3 平面・断面図 (1:15)25
第24図	土坑 4 出土遺物(1:3)・・・・・・・25
第25図	土坑 3 出土遺物 (1:3) · · · · · · · · · 26
第26図	土坑 4 平面・断面図(1:15)27
第27図	土坑7平面・断面図 (1:15)28
第28図	土坑7·溝4出土遺物 (1:3) ······28
第29図	溝 3 A 区遺物出土状況 (1:15) ······29
第30図	溝 3 B 区遺物出土状況 (1:15) ······30
第31図	溝 3 C~E区遺物出土状況 (1:15) ······31
第32図	溝 3 出土遺物 1 (1:3)32
第33図	溝 3 出土遺物 2 (1:3) ······33
第34図	溝 3 出土遺物 3 (1:3)34
第35図	港 4 平面・断面図 (1・15) ・・・・・・・・・・・・・・・・25

(第V章 本	町遺跡第34次調査)
第36図	調査範囲図 (1:200)37
第37図	調査地位置図 (1:5,000) ·····37
第38図	調査区平面·断面図 (1:60) · · · · · · · 38
第39図	出土遺物 (1:4) ······40
(第Ⅵ章 穂	積遺跡第36次調査)
第40図	調査範囲図(1:250) ・・・・・・・・・・・・・・・・41
第41図	調査地位置図(1:5,000)41
第42図	調査区平面・断面図 (1:100) 2面合成 ・・・・・・・・・・・・・・・42
第43図	基盤層上面平面図 (1:100)43
第44図	包含層上面平面図 (1:100)44
第45図	包含層出土遺物 (1:3) · · · · · · · 45
第46図	S P 190遺物出土状況(1:10) ······46
第47図	建物出土遺物 (1~6・8・9は1:3、7は1:4) ・・・・・・・・46
第48図	その他の柱穴出土遺物 (1:3、16のみ1:4)47
第49図	S P 112出土遺物(1:3)······47
第50図	井戸1平面·断面図 (1:20) ······48
第51図	S P 112遺物出土状況(1:10) ······48
第52図	井戸1出土遺物(1は1:3、2は1:4) ・・・・・・・・・・・・・・・48
第53図	井戸 $3 \sim 5$ 断面図($1:20$) · · · · · · · · · · · · · · · · 49
第54図	井戸3・5出土遺物(1は1:3、2は1:4)・・・・・・・49
第55図	井戸 2 断面図 (1:20)49
第56図	土器群 2 遺物出土状況 · · · · · · · 50
第57図	土器群 3 遺物出土状況 · · · · · · · 50
第58図	土器群 2 · 3 出土遺物 (1:3) · · · · · · · · · · · · 50
第59図	S P 85出土遺物 (1~3は1:3、4は1:4) ·····51
第60図	S P 126出土遺物 (1:3) ······51
第61図	S P 126遺物出土状況(1:10) · · · · · · 51
第62図	溝1・2出土遺物 (1は1:3、2は1:4) ・・・・・・51
第63図	土坑 4 断面図 (1:20)52
第64図	土坑 8 断面図 (1:20)52
(to the ware with a state of the state of t	
	塚古墳群第10次調査)
第65図	調査範囲図(1:200)
第66図	調査地位置図(1:5,000)55
第67図	調査区平面·断面図 (1:40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
(第Ⅷ章 確	認調査の成果)
第1表	総調査の成末) 確認調査一覧表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第68図	確認調査地点位置図58
第69図	# 記酬重地点位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第70図	トレンチ断面図 ·······59
第71図	トレンチ掘削状況59
第72図	トレンチ平面・断面図 ········59
711414	1 / I M M M M M M

第73図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・ 59
第74図	トレンチ断面図59
第75図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・ 59
第76図	トレンチ断面図 ・・・・・・ 59
第77図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
第78図	トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第79図	トレンチ掘削状況60
第80図	トレンチ平面・断面図60
第81図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
第82図	トレンチ断面図60
第83図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第84図	トレンチ断面図60
第85図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第86図	トレンチ断面図61
第87図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第88図	トレンチ断面図61
第89図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第90図	トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・61
第91図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第92図	トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第93図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第94図	トレンチ断面図62
第95図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・62
第96図	トレンチ断面図62
第97図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・62
第98図	トレンチ断面図62
第99図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第100図	トレンチ断面図62
第101図	トレンチ掘削状況63
第102図	トレンチ平面・断面図63
第103図	トレンチ掘削状況63
第104図	トレンチ断面図63
第105図	トレンチ掘削状況63
第106図	トレンチ平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・63
第107図	トレンチ掘削状況
第108図	トレンチ断面図
第109図	トレンチ掘削状況 ············64
第110図	トレンチ断面図 ············64
第111図	トレンチ掘削状況 ······ 64
第112図	トレンチ断面図 ·············64
第113図	トレンチ掘削状況 ·······64
第114図	トレンチ断面図 ······ 64
第115図	トレンチ掘削状況 ······ 64
第116図	トレンチ断面図 ·······64
第117図	トレンチ掘削状況65

第118図	トレンチ断面図65
第119図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第120図	トレンチ断面図65
第121図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第122図	トレンチ断面図65
第123図	トレンチ掘削状況65
第124図	トレンチ断面図65
第125図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第126図	トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
第127図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第128図	トレンチ断面図66
第129図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第130図	トレンチ断面図66
第131図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第132図	トレンチ断面図66
第133図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第134図	トレンチ断面図67
第135図	トレンチ掘削状況・・・・・・67
第136図	トレンチ断面図67
第137図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第138図	トレンチ断面図67
第139図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第140図	トレンチ平面・断面図67
第141図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・68
第142図	トレンチ平面・断面図68
第143図	トレンチ掘削状況68
第144図	トレンチ断面図68
第145図	トレンチ掘削状況68
第146図	トレンチ断面図68
第147図	トレンチ掘削状況68
第148図	トレンチ断面図 ····· 68
第149図	トレンチ掘削状況69
第150図	トレンチ断面図69
第151図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・69
第152図	トレンチ断面図69
第153図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第154図	トレンチ断面図 · · · · · · · 69
第155図	トレンチ掘削状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第156図	トレンチ断面図 · · · · · · · 69
第157図	トレンチ掘削状況70
第158図	トレンチ平面・断面図70

図 版 目 次

図版1 原田遺跡第9次調査

- (1) 第1トレンチ2層上面
- (2) 第1トレンチ3-1層上面

図版2 原田遺跡第9次調査

- (1) 第1トレンチ3-4層上面
- (2) 第1トレンチ4層上面
- (3) 第1トレンチ土坑2

図版3 原田遺跡第9次調査

- (1) 第2トレンチ全景
- (2) 第2トレンチ集石土坑

図版 4 小曽根遺跡第28次調査

- (1)調査区北半部第2面 完掘状況(北西から)
- (2)調査区南半部第2面 完掘状況(西から)

図版5 豊島北遺跡第4次調査

- (1) 1区全景
- (2) 2区全景

図版6 豊島北遺跡第4次調査

- (1)建物1
- (2) 建物1柱穴(SP1)

図版7 豊島北遺跡第4次調査

- (1)土坑3遺物出土状況
- (2) 溝3遺物出土状況

図版 8 本町遺跡第34次調査

- (1)調査区全景(南から)
- (2) 柱穴1断面(東から)

図版 9 本町遺跡第34次調査

- (1) 焼土検出状況(南西から)
 - (2) 遺物出土状況 (調査区南壁)

図版10 穂積遺跡第36次調査

- (1) 1区包含層上面
- (2) 1区基盤層上面

図版11 穂積遺跡第36次調査

- (1) 2区包含層上面
 - (2) 2区基盤層上面

図版12 穂積遺跡第36次調査

- (1) SP112遺物出土状況
- (2) 土器群3遺物出土状況

図版13 穂積遺跡第36次調査

- (1) SP190遺物出土状況
- (2) 井戸1

図版14 桜塚古墳群第10次調査

- (1)調査区全景(南東から)
- (2) 周濠埋土断面(西から)

第 I 章 位置と環境

1. 地理的環境

大阪市北郊に所在の豊中市は、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年の箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄宝塚線)開通を契機に宅地化が進み、現在では面積約38km²の市域中に約40万人もの人口を擁する北摂有数の住宅都市にまで発展している。こうした発展に至った背景としては、名神高速道路や阪神高速道路などの幹線道路、大阪国際空港など陸空の交通における利便性の高さが考えられよう。

一方地形に目を転じると、豊中市は北から南に向かって標高が低くなる特徴を有しており、 島熊山付近の最高地点(海抜約100m)から最も低い大島町付近(海抜1m以下)にかけておよそ 100mの比高差を有する。市北部は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる2つの丘陵地、続いて中部 は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした豊中台地、南部は猪名川水系、天竺川、 高川の沖積作用によって形成された平野部といった、巨視的にみて三区分が可能である。

今回報告する6遺跡は、第Ⅱ章原田城跡(北城)内で実施した原田遺跡、第V章本町遺跡、 第Ⅲ章桜塚古墳群は通称豊中台地と呼ばれる段丘上に立地する遺跡であり、第Ⅳ章豊島北遺跡 は曽根の段丘直下の沖積地、第Ⅲ章小曽根遺跡、第Ⅵ章穂積遺跡はそれぞれ天竺川右岸、左岸 に展開する沖積低地に立地する。

2. 歴史的環境

ここでは今回報告する遺跡の時期・動向に限定して、集落の動向を中心に述べていく。

本町遺跡 豊中市域における弥生集落は弥生中期以降次第に低地から台地上に進出することとなり、千里川流域では新免遺跡がその好例として挙げられる。新免遺跡は弥生中期段階で居住域・墓域を有する拠点集落としての性格を有する。一方新免遺跡と東接する本町遺跡も弥生中期段階が集落の初現とみられるが、新免集落からの分村程度とみられ、その格差は歴然としている。本町遺跡が本格的な盛期を迎えるのは古墳後期になって以降である。その背景として柴原遺跡、新免遺跡等とともに、千里川上流域一帯に展開した桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業に関与した集落であったことが考えられる。

原田遺跡 段丘の末端に立地する原田遺跡は、弥生中期~後期が集落の初現とみられ、後期末で一旦衰退するようである。その後11世紀末になって文献に原田郷に関する記事が登場し、15世紀後半には原田氏の居館としての原田城が成立していたことがうかがえる。原田城には北城、南城が存在し、近年の発掘調査によって北城の成立は15世紀代、南城のそれは16世紀代、一方廃絶はいずれも16世紀末~17世紀初頭頃とみられている。さらに北城では一部で土塁の痕跡が

2. 歴史的環境



第1図 市内遺跡分布図

確認されるなど、徐々にではあるが築城当時の姿が明らかになりつつある。今回報告する調査 地は原田城北城の主郭部分に位置しており、北城の成立時期や主郭の構造に関わる知見が得ら れるものと期待された。

桜塚古墳群 古墳時代前期後半、豊中台地に突如出現する大石塚古墳、それに続く小石塚古墳は桜塚古墳群の開始を告げるものであった。同古墳群は少なくとも40~50基の古墳が存在したとみられるが、宅地開発によって多くの古墳は消滅してしまい、今では大塚古墳、御獅子塚古墳、南天平塚古墳など5基が現存するのみである。一方、今回の調査地を含む同古墳群南部は、近年新たな小規模な古墳の発見が相次いでいる。南部の古墳は古墳時代後期前後の築造とみられるものが多く、桜塚古墳群後半~終焉にかけて小規模古墳の動態を把握するうえでは重要なエリアである。今回の調査は、以上の課題に加え、過去に付近で検出されている古墳関連の遺構・遺物との関係が注目された。

豊島北遺跡 曽根の段丘崖直下に形成された豊島北遺跡は弥生後期~終末期に集落が形成されるが、古墳時代以降集落は衰退する。その後奈良時代以降は耕作地が展開したようであるが、そのなかで第3次調査で確認された東西方向の畦畔・溝はその位置からみて摂津国豊島郡の北条と南条の里境に、南北方向の溝は坪境の溝とみられ、条里による土地区画が鎌倉~室町時代には成立していたことが確認された。今後はその成立時期がどこまでさかのぼるかが問題になってこよう。今回の調査地は遺跡東端部、曽根の段丘崖から伸びる小規模な谷間付近に位置しており、周囲では主に弥生後期~終末期の遺構・遺物が確認されているところである。

穂積遺跡 本格的に集落が形成されるのは弥生時代後期を迎えてからであり、古墳時代初頭にかけて豊中南部における拠点集落として展開する。なかでも弥生終末期の集落からは連鋳式の銅鏃未製品が出土するなど、一般の集落ではみられない青銅製品を生産する集落でもあった。その後集落の勢いは古墳時代後期まで一旦衰えることになるが、飛鳥時代以降は次第に耕地化が進むようである。鎌倉時代になると小規模な集落が遺跡中心部と東端部の再編されていくようである。今回の調査地は、遺跡北東端部、春日社領垂水西牧服部村の一角に位置しており、検出された建物跡は中世服部村の展開をうかがい知ることができるものと期待された。

小曽根遺跡 天竺川と高川に挟まれた沖積低地に立地する小曽根遺跡は、弥生前期段階で集落 の形成が始まり、中期には天竺川流域における拠点集落として大きく発展する。弥生後期~終 末期以降、集落は次第に衰退するが、平安時代末期に再び集落が出現し、以後近世まで継続する。平安時代末期の小曽根遺跡や穂積遺跡一帯は、摂関家領(後の春日社領)の荘園垂水西牧 の一角に相当しており、なかでも小曽根遺跡で確認された区画溝をともなう建物群は、名主層 が台頭してきたことをうかがわせ、「今西家文書」をはじめとする文献と対比できる希少な事例 である。

2. 歴史的環境



第2図 調査地点と周辺の地形

第Ⅱ章 原田遺跡第9次調査

1. 調査の経緯

今回の調査は、市指定史跡原田城跡 (北城) 範囲内における範囲確認調査の一環として行ったものである。第1期では、内堀および南辺の土塁について確認した。今回の調査では、北城の築城時期および旧羽室家住宅の建物にかかる遺構面への影響等を確認するために行った。

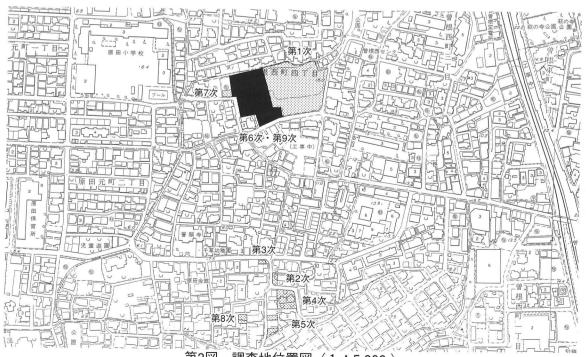
2. 調査の概要

(1) 基本層序

主郭部分で基本層序を完全に把握したのは、第1トレンチに限定される。よって、第1トレンチにおける基本層の構成について述べることにする。なお、第2トレンチは、2層上面で掘削をとどめた。

第1トレンチでは、現地表下から1.2m下で段丘形成層を確認したが、この間に表土・昭和初期の整地層・近代以前の整地層・黄褐色粘質土層・城郭機能段階の整地層等が堆積する。以下、これらの堆積層および整地層の特徴について述べることにする。

1-1層 主に段丘形成層 (以下、基盤層とする。) によって構成される整地土で、旧羽室家住宅建築に伴う整地層と考えられる。レンガ・瓦等の混入物が極めて少ないことから、土塁を削平して整地した可能性が考えられる。



第3図 調査地位置図(1:5,000)

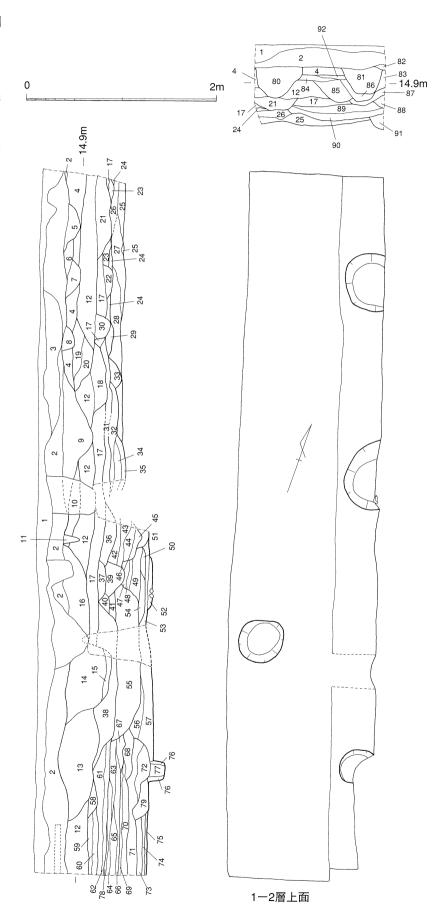


第4図 トレンチ位置図(1:400)

1-2層 黄褐色極細 粒砂に基盤層ブロックを 含む整地土である。2-1層が柔弱なために、られるに、られると考えらが食いとのと考えらがらいることを 出羽室家住宅が建築に伴う同層といる。は、18世紀後半に明月降からは、18世紀後半にからは、18世紀後半に対した。 遺物が含まれる。時期に整地されたと言える。

2 層 均質な黄褐色 極細粒砂で、崖錐性堆積 層に類似する。極めて柔 弱であり、閉鎖的な環境 の下で堆積したものと言 える。おそらくは、土塁 等の流出土が2次的に堆 積したのであろう。同層 上面溝2からは、I-2 期の肥前系陶器皿が出土 しており、16世紀末まで に堆積したことが想定で きる。同層は層厚20cm前 後であり、これが堆積す るのには、一定の期間を 要したと考えられる。ま た、この間、城内で人間

第5図 第1トレンチ壁面 断面・1-2層平面図 (1:40)



第6図 第1トレンチ壁面土層注記

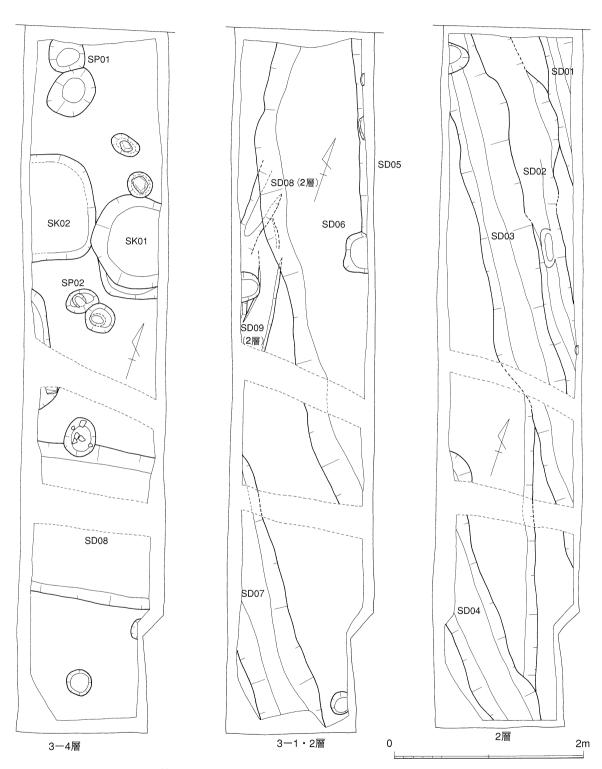
- 1. 里裼色~黄灰色 (2.5Y3/1~4/1) 腐植土
- 2. 黄褐色 (10YR5/6) 細粒砂~粘土 礫を少 量含む。基盤層を転用した整地土で、昭和12年 の建築に伴うものと考えられる。
- 3. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細~極細粒砂に中粒 砂を多く含む。礫・基盤層ブロックを少量含む。
- 4. 黄褐色 (2.5Y5/4) 極細〜細粒砂 礫・土 器細片を極少量含む。昭和12年以前の整理層と 考えられる。
- 5, 褐色(10YR4/4) 極細粒砂に細粒砂を少量 含む。礫・石を極少量含む。
- 6. 褐色 (10YR4/4) 極細粒砂に細粒砂を少量 含む。礫・石を多く含む。
- 7. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細~極細粒砂に中粒 砂を多く含む。礫を含む。
- 8. 黄褐色 (2.5Y5/4) 細~極細粒砂に粗粒砂 を含む。
- 9. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細~極細粒砂 石を 多く含む。基盤層ブロック・炭を極少量含む。 10. 黄褐色 (2.5Y5/3) 細~極細粒砂に中~粗 粒砂を多く含む。基盤層ブロックを少量含む。 11. 攪乱
- 12. 黄褐色 (2.5Y5/3) 極細〜細粒砂 礫を極 少量含む。自然堆積層
- 13. 明黄褐色 (10YR6/6) 極細~中粒砂 石· 礫を含む。
- 14. 明黄褐色 (10YR6/6) 極細〜細粒砂に中粒 砂を多く含む。
- 15. 褐色 (7.5YR4/3) 極細〜細粒砂 シルトを 会す。
- 16. 明黄褐色 (10YR6/6) 極細~細粒砂 礫を 少量含む。
- 17. にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト〜細粒砂 土器細片を極少量含む。
- 18. 黄褐色 (2.5Y5/4) 細~極細粒砂にシルト を多く含む。粗粒砂~礫を含む。
- 19. 黄褐色 (2.5Y5/4) 細~極細粒砂に中粒砂 ~礫を多く含む。
- 20. 黄褐色 (2.5Y5/4) 細~極細粒砂 石を含 む。
- 21. 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 極細~細粒砂 礫を 含む。十器細片を極少量含む。
- 22. 灰黄色 (2.5Y6/2) 細~極細粒砂に灰黄色 (2.5Y7/2) ブロック・基盤層ブロックを含む。 23. 基盤層ブロックに褐灰色(10YR6/1)シル トを含む。整地層
- 24. 基盤層ブロックに褐灰色(10YR6/1)シル トを多く含む。整地層
- 25. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂に極細粒砂を少 量含む。炭・焼土塊・角礫を多く含む。火災に
- 26. にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト〜細粒砂 土器細片を極少量含む。炭を極少量含む。
- 27. 黄橙色 (10YR7/8) 中~ 粗粒砂に灰白色
- (10YR8/1) 粘土ブロックを含む。整地層 28. にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト〜細粒砂 土器細片を極少量含む。炭を極少量含む。
- 29. 基盤層ブロックに褐灰色(10YR5/1)細粒 砂を含む。
- 30. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 極細粒砂~シル ト炭を少量含む。
- 31. 灰褐色(7.5YR5/2)シルト~極細粒砂に明 褐灰色(7.5YR7/1)シルトブロックを含む。焼 十ブロックを含む。
- 32. 明褐灰色 (7.5YR7/1) 細~極細粒砂にシル トを含む。礫・炭・焼土ブロックを少量含む。

- 33. 基盤層ブロックほかに明黄褐色 (10YR6/8) 63. 土層 8 と酷似する。整地層 細粒砂を含む。土器・炭を極少量含む。
- 34. 明褐灰色 (7.5YR7/1) 細~極細粒砂にシル トを含む。基盤層ブロックを含む。
- 35. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 中~細粒砂 礫・ 基盤層ブロックを含む。
- 36. 灰褐色 (7.5YR5/2) 極細~細粒砂 拳大の 石を含む。礫を少量含む。炭・土器片を少量含 む。整地層
- 37. 灰褐色 (5YR5/2) 細~極細粒砂 石を多 く含む。炭を極少量含む。
- 38. 褐灰色 (7.5YR4/1) 極細〜細粒砂 炭を極 少量含む。
- 39. 浅黄色 (2.5Y7/3) ~ 灰黄色 (2.5Y6/2) 細 ~中粒砂に粗粒砂・礫を含む。基盤層ブロック を多く含む。
- 40. 灰黄褐色 (10YR6/2) 細~中粒砂に極細粒 砂を多く含む。基盤層ブロックを局所的に含む。
- 41. 灰黄褐色(10YR6/2)中〜細粒砂に極細粒 砂を含む。基盤層ブロックを多く含む。整地層 42. 基盤層ブロックに灰白色 (10YR7/1) 極細 粒砂を含む。整地層
- 43. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂に極細粒砂を含 む。礫を多く含む。
- 44. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 基盤層ブロッ ク・灰黄色 (7.5YR4/2) 粘土ブロックを多く含 t.
- 45. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 淡黄色 (5Y8/4) 粘土ブロックを含む。

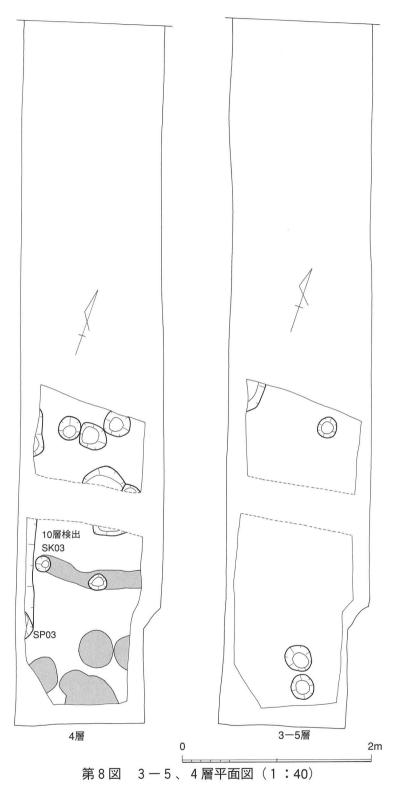
む。礫を少量含む。整地層

- 46. 黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂 礫を少量含む。
- 整批層 47. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂に極細粒砂を含
- 48. 黄橙色 (7.5YR7/8) 粘土 (基盤層ブロック) 整地層
- 49. にぶい黄橙色 (10YR6/4) 中~粗粒砂 基 盤層ブロックを多く含む。整地層
- 50. 灰褐色 (5YR5/2) 極細粒砂~シルト 炭・土器細片を極少量含む。
- 51. 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 灰白色 (5Y8/1) 粘土ブロックを多く含む。
- 52. 灰褐色 (5YR5/2) 中~細粒砂に礫を含む。 炭・土器細片を極少量含む。
- 53. 灰褐色 (5YR5/2) 極細粒砂~シルトに礫 を含む。炭・土器細片を極少量含む。
- 54. 黄橙色 (7.5YR7/8) 粘土 (基盤層ブロック)
- 55. 浅黄色 (2.5Y6/3) 中~粗粒砂 石を多く 含む。基盤層ブロックを含む。
- 56. 灰黄色 (2.5Y7/2) 中~粗粒砂 礫を多く 含む。整地層
- 57. にぶい橙色 (7.5YR6/4) 均質な細粒砂 礫 を多く含む。整地層
- 58. にぶい黄橙色 (10YR6/4) 極細粒砂~シル ト 石・炭を極少量含む。
- 59. 灰褐色 (7.5YR5/2) 極細粒砂 基盤層ブロ ック・礫を含む。炭を極少量含む。整地層
- 60. 基盤層ブロックほか粘土ブロックに礫を少 量含む。整地層
- 61. 黄橙色 (10YR7/8) 中〜粗粒砂に灰白色 (10YR8/1) 粘土ブロックを含む。土層 8 に類似 む。昭和12年以前の整理層と考えられる。
- 62. 灰褐色 (7.5YR5/2) 比較的均質な細粒砂 灰白色(5Y8/1)粘土ブロックを多く含む。整

- 64. 土層 8 と酷似する。整地層
- 65. にぶい褐色 (7.5YR5/3) 細粒砂~シルト 礫を多く含む。整地層
- 66. 十層 9 と酷似する整地層 (火災後の整地層) 67. 灰褐色 (7.5YR4/2) 極細~細粒砂 礫·土 器片を極少量含む。
- 68. 基盤層ブロックほか粘土ブロックに、にぶ い黄色(2.5Y6/4)極細〜細粒砂を少量含む。 敷州屋
- 69. 灰白色 (7.5Y8/1) シルト 整地層
- 70. にぶい橙色 (7.5YR7/4) 細~極細粒砂 中 粒砂を多く含む。石・礫を多く含む。整地層
- 71. にぶい黄橙色 (10YR7/4) 中粒砂 粗粒砂 を多く含む。礫を多く含む。整地層
- 72. 灰褐色 (5YR5/2) 極細~細粒砂 基盤層 ブロック・炭の層状ブロック・焼土を多く含 む。火災に伴う整地層
- 73. 灰黄色 (2.5Y7/2) 中~粗粒砂 礫を含む。 整抽屉
- 74. 灰黄褐色(10YR6/2)比較的均質なシルト ~ 極細粒砂。整地層
- 75. 橙色 (7.5YR6/8) シルトに砂礫を多く含む。 整地層
- 76. 暗赤褐色 (5YR3/3) 極細粒砂ブロックに 灰白色(10YR7/2) 極細粒砂を含む。土師器皿 を含む。
- 77. 灰白色(10YR7/2)均質なシルト~極細粒 砂 暗赤褐色 (5YR3/3) 極細粒砂ブロックを多 く含む。
- 78. 灰褐色 (5YR5/2) 細~中粒砂 基盤層ブ ロックを多く含む。炭を含む。
- 79. 灰白色 (10YR7.5/1) 均質なシルト〜細粒 砂 灰褐色 (5YR4/2) シルトブロックを含む。 整地層
- 80. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 極細〜細粒砂 礫を少量含む。
- 81. 黄褐色 (2.5Y5/3) 極細~細粒砂 礫を多 く含む。
- 82. 黄褐色 (2.5Y5/3) 細~極細粒砂 基盤層 ブロックを含む。
- 83. 黄褐色 (2.5Y5/3) 細~中粒砂 礫を含む。 84. 黄褐色 (2.5Y5/4) 極細~細粒砂 礫·+ 器細片を極少量含む。昭和12年以前の整理層と 考えられる。
- 85. 暗黄褐色 (2.5Y4.5/2) 極細~細粒砂 礫を 含む。
- 86. 黄褐色 (2.5Y5/3) 極細~細粒砂 礫を極 少量含む。層下部に基盤層ブロックを多く含む。 87. 灰黄褐色 (2.5Y5/2) 極細~細粒砂
- 88. 灰オリーブ色 (5Y4/2) 極細粒砂に細粒砂 を含む。礫・炭・土器細片を極少量含む。
- 89. 灰黄褐色(10YR5.5/2)極細〜細粒砂にシ ルトを少量含む。礫・土器・炭を極少量含む。
- 90. 灰黄褐色 (10YR4/2) 極細粒砂~シルト 細粒砂を少量含む。
- 91. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 中~細粒砂に極 細粒砂を含む。基盤層ブロック・焼土塊・炭・ 礫を少量含む。
- 92. 黄褐色 (2.5Y5/4) 極細~細粒砂 礫·土 器細片を極少量含む。基盤層ブロックを少量含



第7図 2、3-1・2・4層平面図(1:40)



による活動が行われていたと するならば、同層が均質的に 堆積する可能性は乏しい。よ って、同層が堆積する期間に 関しては、廃城状態であった 可能性が極めて高い。

3-1層 2層と同質の堆積層である。2層から区分したのは、同層上の遺構面をもって城郭機能が停止することによる。

3-2層 灰白色粘土を多 く用いた整地土で、16世紀前 半頃の所産と考えられる。

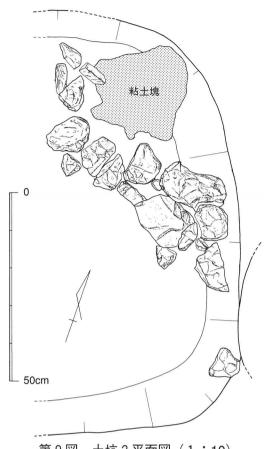
3-3層 炭・焼土を多く 含む堆積土で、火災に伴う可 能性が高い。

3-4~6層 基盤層・灰 白色粘土等の整地土で、各層 の層厚1~5cm前後をはか る。特に第1トレンチ南側で は、三和土風に整地された状 況を確認している。トレンチ 南壁面では、層境に炭・焼土 層を挟む部分があり、3-3 層以外にも、火災があった可 能性がある。

4 層 段丘形成層である。礫を多く含んだ黄褐色粘土からなる。

(2) 第1トレンチの様相

先の基本層序で述べたように、第1トレンチでは多彩な堆積土が確認された。遺構は、それ ら各時期の堆積層上面で検出されたので、ここでは各遺構面毎にその様相を述べていく。



第9図 土坑2平面図(1:10)

1-2層上面 柱穴の可能性が考えられるピッ ト3基と、土坑1基を検出した。ピットについて は、基盤層ブロックを多く含むことから、1-1 層から掘削された可能性も残る。なお、これらの 遺構については、調査範囲が限定されることから、 建物との関係は判断できないが、旧羽室家住宅以 前の建物にかかる可能性は考えられる。

2層上面 南北方向に掘削された溝4条を検出 した。それぞれの溝は、幅50~55cm、深さ10~ 30cmをはかる。また、溝の間隔が一定ではないこ とから、耕作痕等の可能性はなく、性格は不明で ある。

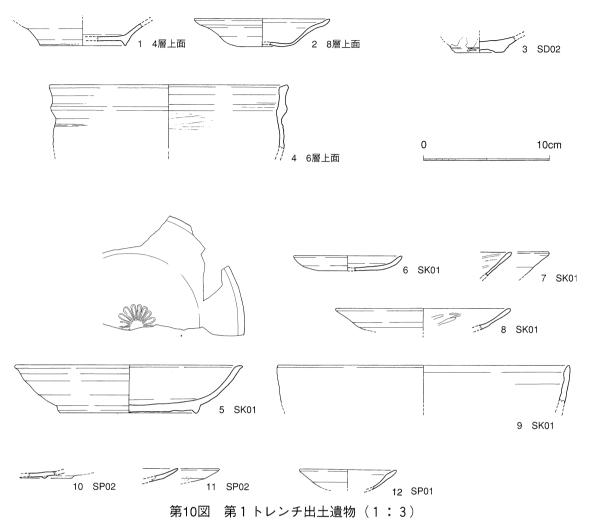
なお、溝2から第10図3の肥前系陶器皿が出土 した。皿の畳付けに胎土目痕が認められることか ら、I-2期の所産と言える。

3-1層上面 溝3条を検出した。このうち、 溝6・7は、2層上面の溝1~4と規模・位置が 大きく変わらない。掘削層位面が3層になること

は、壁面断面で確認できることから、ほぼ同位置に複数条の溝を掘削したことになるが、その 目的等は不明である。また、溝5はトレンチ北半部の東壁面側でごく一部を検出しただけに止 まるが、溝の方向は明らかに溝6・7と異なる。また、壁面に河原石が並ぶように検出されて いることや、 $5 \sim 10 \text{cm}$ 大の栗石が出土していることから、石組みの溝等になる可能性が高い。 細片のため、遺構の時期が特定できるものとは考えにくいが、16世紀前半代の可能性が考えら れる。

3-2層上面 幅20cm前後、深さ5cm前後の溝2条とピット1基を検出した。溝の方向に規 則性はなく、ピットも柱痕が確認できなかったことから、これらの遺構の性格については不明 である。なお、これら遺構の埋土には、焼土・炭が多く含まれる。

3-4層上面 土坑2基・柱穴8基・溝1条を検出した。土坑1は、長径1.2m、深さ0.4mを はかり、楕円形状の平面形を呈する。埋土に基盤層ブロックを多く含み、意図的に埋め戻され たものである。埋土中からは、第10図5の古瀬戸皿が出土した。これは3-3層で出土したも のと接合できたものであり、土坑1の埋没時期と3-3層の堆積時期は大きく変わらないこと が言える。このほか、第10図8の瓦器をはじめとする遺物が出土しているが、これらは細片で 下層遺構からの混入品と考えられる。なお、出土した瓦器は、和泉型瓦器椀でⅣ-2期の所産 と考えられる。なお、第10図9は、東海系捏鉢の口縁部となる可能性が考えられる。



土坑 2 は、長軸長1.1m、深さ10cm前後をはかり、隅丸長方形状の平面形を呈する。基底面上に $15\sim30$ cm大の河原石が、北西から南東に向けて並ぶような状態で出土した。しかし、これらの石は、石組みとなるように配置されたものではないため、その性格等は不明である。また、土坑 2 北東端部では、灰白色粘土が敷き詰められたような状態で検出された。

溝8は、幅1.65m、深さ15cmをはかる。東西方向に掘削されているが、検出部分が限定されているため、性格は不明である。

このほか、柱穴を検出している。これらは、明確な柱痕や根石を伴うものであるが、調査範囲が限定されているため、建物には復元できなかった。SP01からは、瓦器片が出土しているが、これは下層からの混入品と考えられる。

なお、3-4層の北半部は、土坑等の遺構が多数検出された。これらについては、性格等が確定できないこともあり保存することにした。このため、以下の層については、トレンチ南半部に限定して調査を行った。

3-5層上面 柱穴3基と土坑1基を確認した。柱穴はいずれも直径20cm前後と小型であるが、柱痕を確認していることから、掘立柱建物の一部になる可能性が考えられる。こられ遺構

からは、遺物は出土しなかったため、 時期は不明である。

3-6層上面 トレンチ東側で、 土坑と考えられる遺構の一部を検出 したが、範囲が限定されているため 遺構の性格は不明である。

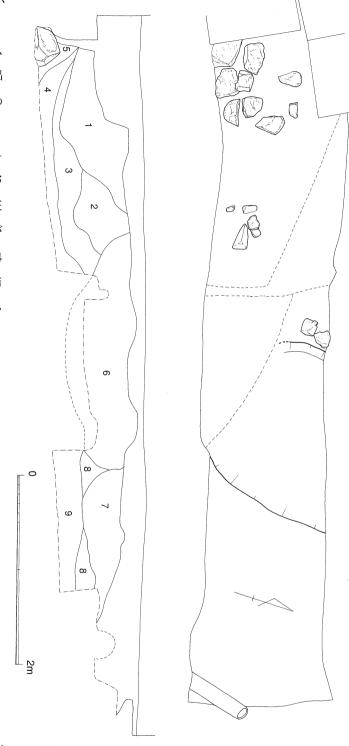
4層上面 柱穴・土坑等を検出した。土坑は検出部分が限定されており、性格は不明である。柱穴の存在から掘立柱建物が存在する可能性が考えられる。なお、SP02からは、14世紀前半の可能性が考えられる土師器小皿が出土したが、図化できなかった。

同層上面からは、これ以外にも多数の遺構を検出している。これらの遺構は、埋土の色調等から城郭以前の所産と考えられたため、今回は掘削しなかった。

以上、第1トレンチからは多数の 遺構面を確認した。特に、3-4層 で出土した瓦器椀片や4層上面の SP02の存在から、築城時期が14世紀 初頭以前に遡ることになった点は、 特筆できる成果と言えよう。

(3) 第2トレンチの様相

当トレンチは、旧羽室家住宅の基 礎掘削深度と、遺構面への影響の有 無を確認するために設定したものであ



第11図 第2トレンチ平面・断面図(1:40)

る。トレンチを掘削した結果、住宅の基礎は2層上面で止まり、それ以下の遺構面に対する影響はほとんどないことを確認した。よって、旧羽室家住宅下には原田城関連遺構が、良好な状態で保存されていることが判明した。

なお、2層上面で河原石を多く含む土坑状の遺構(集石土坑)を検出したが、調査範囲が限

3. まとめ

定された上に、地下埋設物が錯綜しており、遺構掘削ができる状況ではなかった。

3. まとめ

今回の調査の結果、第1トレンチにおいて、多数の遺構面を検出したが、これら多数の遺構面は各時期毎における原田城の状況を示す。よって、全面調査を行った場合、築城段階から廃城までの変遷が、明確に把握できるものと予見される。また、今回の調査は範囲が限定され、各遺構面の時期の詳細まで把握できなかったものの、2層が16世紀末以降、3-1層上面が16世紀後半、3-2層上面が16世紀前半、3-4層が15世紀、3-6層あるいは4層が14世紀前半となることが想定できる。

よって、原田城北城の築城時期は、14世紀初頭以前に遡ると言える。このことによって、原田氏が文献上に初見する13世紀末に、築城された可能性が高くなった。また、3-1層は閉鎖的な空間において、あまり人が活動しない環境の下で堆積したと指摘したが、このことから16世紀中頃~後半のある時期に、主郭部分が放棄されていた可能性が考えられる。さらに、3-1層上面の遺構は荒木村重の乱時の陣城段階の所産となる可能性も提示できるだろう。

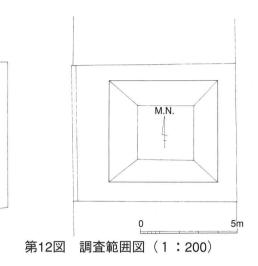
また、旧羽室家住宅の基礎が予想以上に浅く、原田城関連遺構がほぼ完全な状態で保存されていることが想定できる。仮に全面調査を行った場合、築城から廃城、荒木村重の乱時の状況まで把握できることになる。北摂地域における国人層の城郭は、ほとんど現位置の推定すら困難なものが多く、縄張りの全体像が解明されているものはほとんどない。その上、出現から廃城にいたる過程が、原田氏の推移と合わせて検討できるという小規模城郭は、関西にあっても類希な存在と言える。

以上より、今回の調査によって、畿内の国人、原田氏の居城である原田城跡(北城)の重要性が明確なものとなった。また、原田城跡(北城)の出現にはじまる中世後期への胎動を、豊中市南部における垂水西牧榎坂郷における悪党の展開などもあわせて検討することにより、畿内における在地領主層の転換など、南北朝期における社会構造の変革にかかる具体的な要因を解明する手がかりともなろう。

第Ⅲ章 小曽根遺跡第28次調査

1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市北条町1丁目297-6に所在する。平成19年4月24日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成19年5月2日に確認調査を行ったところ、地表下約100cm、140cmのところでそれぞれ中世後期、平安時代とみられる遺構面を確認した。申請地では個人住宅の建設が予定されているが、それに伴う柱状地盤改良深度が約5mに達することから、現行の計画では遺構の破壊を免れず、協議の結果、本調査を実施することとなった。

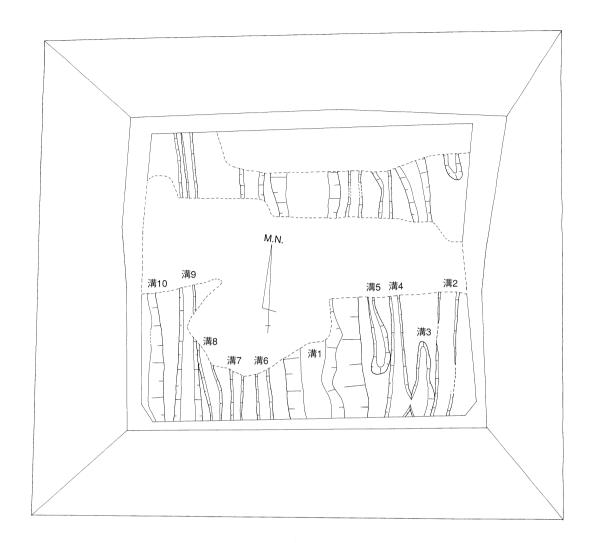


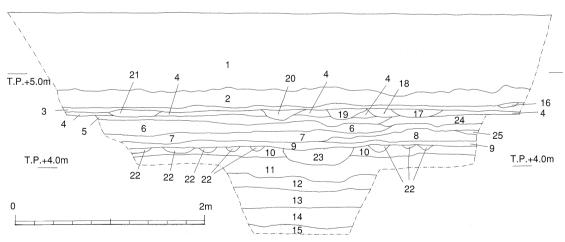
2. 調査の概要

(1) 遺跡の概要

小曽根遺跡は豊中市南部、天竺川と高川に挟まれた沖積低地に位置し、縄文晩期から近世にかけて断続的に集落が営まれてきた複合遺跡である。特に市道神崎・刀根山線西側で実施された第7・13・15・16次調査地付近が遺跡の中心地とみられ、弥生時代中期の集落からは竪穴住







1. 現代の盛土。 2. 旧耕作土。 3. 明緑灰色(7.5GY8/1)細~中粒砂。 4. 淡黄色(5Y8/4)細~中粒砂。第1面。 5. 明青灰色(10BG7/1)~明緑灰色(10GY7/1)シルト。 6. 明青灰色(10BG7/1)~淡黄色(5YR8/4)細粒砂。 7. 明緑灰色(10GY7/1)~明青灰色(10BY7/1)細~極細粒砂。 8. 明緑灰色(10GY7/1)シルトと灰色(N7/)極細粒砂の混合土(1:1)。 9. 灰色(5Y6/1)シルト~極細砂。 10. 灰色(5Y6/1)シルト。第2面。 11. 明緑灰色(10GY8/1)シルト。比較的均質。 12. 灰色(N7/)~灰白色(10Y7/1)シルト。 13. 灰黒色(N4/)シルト。弥生時代の遺物包含層。 14. 暗灰色(N3/)極細粒砂。弥生時代の遺構面?。 15. 灰色(N4/)細粒砂。 16. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂。 鋤溝跡。 17. 灰白色(5Y8/1)中~細粒砂。耕作痕。 18. 淡黄色(5Y8/4)~浅黄色(7.5Y7/3)細~中粒砂。 19. 17と同じ。 20. 暗灰黄色(2.5Y8/2)中~細粒砂。 21. 明緑灰色(7.5GY8/1)~灰白色(5GY8/1) 細~中粒砂。 22. 灰色(5Y6/1)極細粒砂~シルト。溝2~10埋土。 23. 灰色(5YR6/1~5/1)極細粒砂~シルト。溝1埋土。 24. 淡黄色(5Y8/4)~明青灰色(10GY7/1)極細粒砂に暗灰色(N3/)シルトが少量混ざる。 25.暗灰色(5GY7/1)細粒砂。溝埋土?。 26. 明青灰色(10BG7/1)細~極細粒砂と明緑灰色(10GY7/1)極細粒砂の混合土(1:1)。

第14図 調査区平面・断面図(1:40)

居、方形周溝墓が多数検出され、当該期の天竺川流域における拠点集落の一つとみられている。 また平安後期から室町時代にかけての集落は、今西家に伝わる「摂津垂水西牧榎坂郷田畠取帳」 に記された中世小曽根村の実態を考古学的な見地から明らかにするものとして注目されている。 今回の調査地は、遺跡の中心地よりも北西に位置しており、過去の調査事例の少ないエリア ではあるが、周辺の調査成果から推測すると、集落縁辺部としての可能性が考えられる。

(2) 基本層序

基本層序は地表下約90cmまでは現代の盛土(1層)であり、その直下に宅地化直前段階までの耕作土(2層)が20cm程度堆積する。3~9層までの約40cmは明緑灰色~灰色を基調とした細~極細粒砂層であるが、実際はさらに細分可能であった。これは中世~近世以降の間に形成された耕作土とみられる。このうち4層の上面では、埋土に近世以降の磁器砕片を含むピットや南北方向に走る小規模な溝などを検出している。続いて10~12層は瓦器椀を伴うもので、平安後期頃以降の形成が考えられる。12層から13層にかけて瓦器椀を包含するピット1基を検出している。13層の灰黒色シルトは弥生時代の遺物を含む遺物包含層であることから、その直下暗灰色極細粒砂層(14層)は弥生時代の遺構検出面に相当するものとみられるが、今回は調査範囲の制約もあり遺構は確認されなかった。

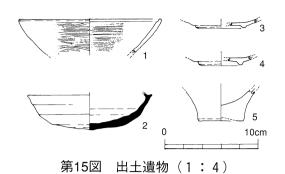
今回の調査は、本調査の契機となった確認調査の成果に基づき、4層ならびに10層上面をそれぞれ第1面、第2面と呼称し調査を実施しているが、第1面は時代等を考慮し今回の報告では割愛した。

(3) 検出した遺構

第2面検出の遺構はすべて溝状遺構であり、調査区南壁部分を基準にすると少なくとも10本 (溝1~溝10) は確認できる。なお調査区北半部検出の溝は、その多くが南半部の溝1~10に対応するものとみられるが、反転調査の影響により溝1以外の対応関係が不明確なものとなっている。溝2~溝10は幅10~30cm、深度が5cm以下の非常に浅いものであり、しかもほぼ一定の間隔で平行に伸びていることから、これらは耕作行為によって生じた痕跡とみられる。一方溝1は他の溝と同様南北方向に走るものの、検出幅80cm、深度約30cmをはかるもので、他の溝とは区別されるべきものである。埋土は灰色極細粒砂~シルトを主体とするもので、観察の結果、常時帯水の状況下にはなかったようである。出土遺物は稀薄であったが、溝1埋土から出土の瓦器椀が13世紀代の特徴を有することから、当該溝の埋没年代が13世紀代以降であることが推察され、他の溝群も同様の時期の所産であることが考えられる。

(4)出土遺物

出土遺物は遺物収納箱にして1箱分出土しているが、図化に耐えうるものとなると第15図に



示すように 5 点に限られた。 1 、 3 、 4 の瓦器 椀は、 3 が溝 1 出土であり、 1 、 4 は第 2 面より下位の $10\sim11$ 層から出土したものである。 1 は内面に円錐状の剥離痕がみとめられる。楠葉型に該当しよう。 12世紀代の特徴を有する。 3 の高台の特徴は 1 、 4 よりも新しい様相を呈しており概ね13世紀代の特徴を有する。 2 の須恵

器は第1面検出の土坑から出土したものである。このように6世紀代(古墳時代後期)の遺物が混入されていることから、付近に当該時期の遺構が存在する可能性がある。5は弥生土器壷または甕の底部とみられる。内外面ともに摩滅が著しいため器面調整は不明である。

なお弥生時代の遺物包含層(13層)出土の土器片は、すべて砕片のため図化し得なかったが、器面調整を観察する限りタタキがみとめられないことから、弥生中期またはそれ以前の所産であることが考えられる。

3. まとめ

今回の調査は非常に限られた調査範囲ではあったが、貴重な調査成果が得られた。主な成果 として以下のことが挙げられる。

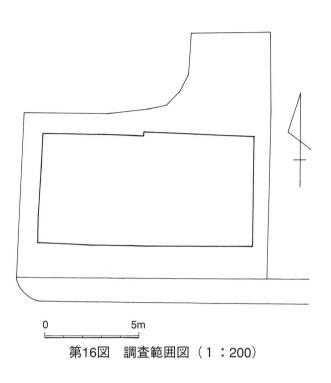
まず第2面では建物に関連する遺構は確認されず、耕作行為によって生じたとみられる小溝群が多数検出されたことから、13世紀代の調査地付近が居住地ではなく耕作地であったことが考えられる。

次に弥生時代の遺物包含層が確認されたことで、調査地付近も弥生集落の一角であったことが明らかになった。今回の調査地から南東方向のところが弥生時代中期集落の中心地とみられ、竪穴住居や方形周溝墓が多数確認されているが、今回は明確な遺構はみとめられず、遺物の出土量も少量であったことから、調査地付近は集落の中心地からやや離れた縁辺部であった可能性が高い。小曽根遺跡における弥生集落の盛衰については上記の結果を踏まえつつ、調査地から北西方向で確認されている弥生後期~終末期の集落との関連も今後検討していかねばならないであろう。

第Ⅳ章 豊島北遺跡第4次調査

1. 調査の経緯

当調査区は、曽根東町5丁目82-1に 所在する。平成19年4月16日に、共同住 宅建築に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提 出され、これを受けて平成19年5月14日 に確認調査を実施した。この結果、現地 表下160cmのところで遺物包含層を、また 基盤層上面において遺構を確認した。計 画中の建物は、これら遺構面を著しく損 壊することから、記録保存の必要性が生 じた。以上をふまえ、施主・建築業者と 協議を行ったところ、平成19年6月7日 から7月31日の日程で、建築範囲を対象 に本調査を実施することになった。なお、 当事業は、調査経費の一部を補助事業の 対象としている。



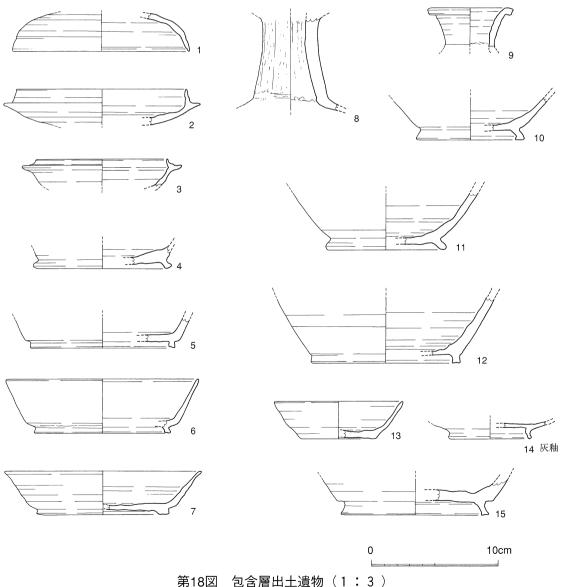


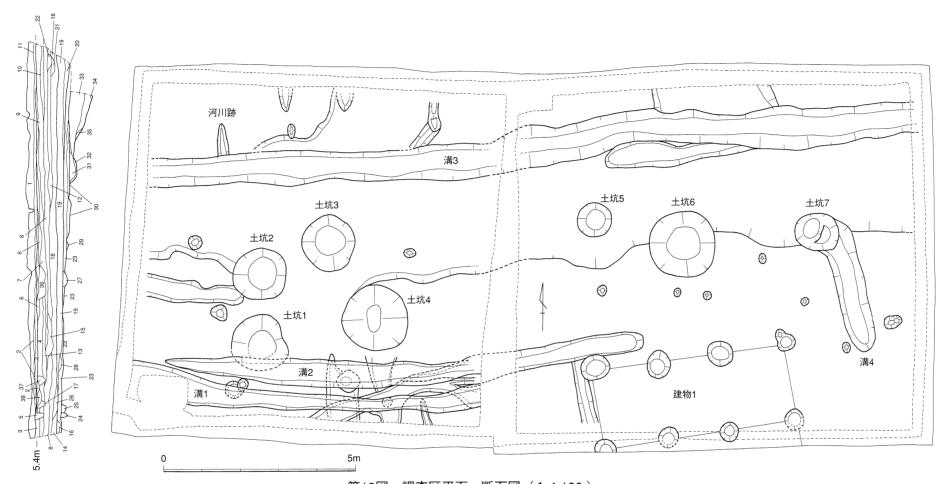
2. 調査の概要

(1) 基本層序

当調査区では、現地表下1.65mのところで遺構面の最高部を確認した。この間、宅地造成に 伴う整地土、旧耕作土、古代~近世に堆積した水成層、そして古墳時代~古代の遺物包含層が 堆積する。

このうち、古代~近世の水成層は上から順に褐灰色・黄灰色・にぶい黄褐色細粒砂の3層程 度に大別できる。これらの堆積層の上面において、水路と考えられる遺構が壁面断面で確認で きることから、各時期に耕地として利用されたものと言える。また、古墳時代~古代の遺物包 含層は、黄灰色シルト層 (上層) と暗灰色中粒砂・極細粒砂層 (下層) に大別できる。上層は 遺物の出土量が少なく、また上面から掘削された遺構も水路に限定されることから、耕地とし





1. 耕作土

- 2. 褐灰色 (5YR5.5/1) 極細粒砂
- 3. 浅黄色(2.5 Y 7/3)細粒砂
- 4. 褐灰色 (10YR6/1) 極細〜細粒砂
- 5. 攪乱
- 6. にぶい黄橙色 (10YR6/1) 極細~細粒砂
- 7. 灰黄色 (2.5 Y 6/2) 粗~細粒砂
- 8. にぶい黄褐色 (10 Y R 5/3) シルト~極細粒砂 細粒砂を含 **む。**
- 9. 黄灰色 (2.5 Y 6/1) シルトに細~中粒砂を含む。
- 10. 灰オリーブ色 (5 Y 5/2) シルト~極細粒砂
- 11. オリーブ褐色 (2.5 Y 4/3) シルト 中粒砂を含む。
- 12. 灰色 (5 Y 6/1) 極細粒砂~シルト 炭・土器細片を極少量 含む。

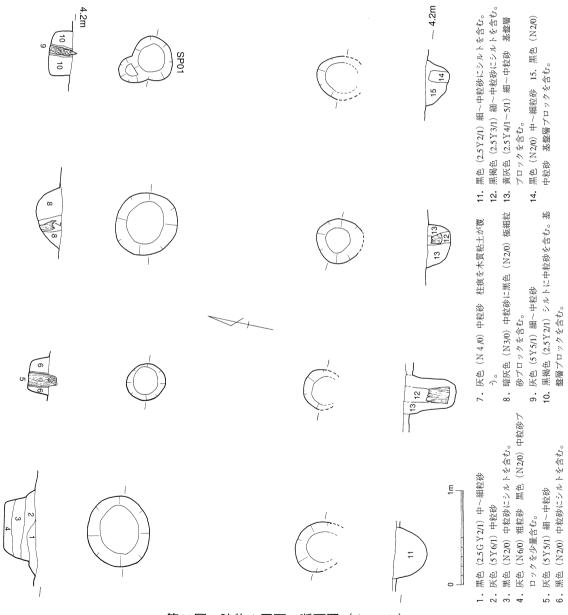
第19図 調査区平面,断面図(1:100)

- 13. 灰黄褐色 (10 Y R 6/2) 細~中粒砂
- 14. 黄灰色 (2.5 Y 5/1) シルトに細粒砂を含む。
- 15. 暗黄灰色 (2.5 Y 5/2) 極細粒砂 中粒砂を含む。
- 16. 黄灰色 (2.5 Y 5/1) 中粒砂 土器片を含む。
- 17. 黄灰色 (2.5 Y 6/1) シルト~極細粒砂 石を少量含む。
- 18. にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト
- 19. 黄灰色 (2.5 Y 5/1) 中粒砂 土器片を含む。
- 20. 暗灰黄色 (2.5 Y 5/2) 極細粒砂 中粒砂を含む。
- 21. オリーブ褐色 (2.5 Y 4/3) 極細〜細粒砂
- 22. 灰オリーブ色 (5Y5/3) 細~極細粒砂
- 23. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂にシルトを含む。層下部は土壌化し 37. 褐灰色 (10 Y R 6/1) 極細粒砂~シルト ている。南部は青灰色 (10BG5/1)
- 24·25. 灰色 (N4/0) 中粒砂
- 26. 黄灰色 (2.5 Y 4/1) シルト〜細粒砂

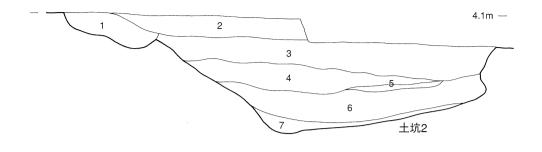
- 27. 灰色 (5 Y 5/1) 細~極細粒砂
- 28. 暗青灰色 (10 B G 4/1) 中粒砂にシルトを多く含む。
- 29. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂
- 30. 黒色 (N2/0) シルトに中粒砂を含む。
- 31. 暗灰色 (N3/0) シルト
- 32. 暗灰色 (N3/0) シルト 基盤層ブロックを多く含む。
- 33. 灰色 (N 5/0~6/0) シルト
- 34. 黒色 (N2/0) 極細〜細粒砂
- 35. 灰色 (N6/0) 細粒砂
- 36. 黄褐色 (2.5 Y 5/3) 極細~中粒砂 粗粒砂・礫を含む。
- 38. 黄灰色 (2.5 Y 6/1) 極細~細粒砂

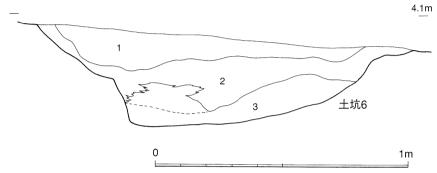
て利用された可能性がある。一方、下層からは掘立柱建物に伴う柱穴が掘削され、また同層から出土した遺物も多いことから、集落の展開に伴って堆積した可能性が考えられる。なお、下層は中粒砂・極細粒砂層の2種に区分でき、調査区南側は中粒砂層が、北部は極細粒砂層は堆積する。

これは、調査区北端で河道跡を検出したとおり、調査区の南端から北側では約35cmの高低差があることに起因するものと考えられる。なお、下層からは、第18図に挙げる遺物や、瓦・蛸壺などが出土した。これらの遺物から、下層が7~10世紀にかけて堆積したものと考えられる。



第20図 建物1平面・断面図(1:40)





第21図 土坑2・6断面図(1:15)

土坑 2

- 1. 灰色 (N4/0) 中〜細粒砂 同色シルトブロックを含む。
- 2. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂 灰色 (N4/0) 中粒砂ブロックを多く含む。
- 3. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂に極細粒砂を含む。
- 4. 灰色 (N4/0) 中~細粒砂 (基盤層流入土)
- 5. 暗灰色 (N3/0) シルト~極細粒砂
- 6. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂に極細粒砂を含む。
- 7. 暗オリーブ灰色($2.5\,\mathrm{G}\,\mathrm{Y}\,4/1$)中粒砂 局所的に黒色($\mathrm{N}\,2/0$)シルト を含む。

土坑6

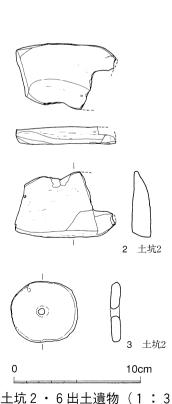
- 1. 黒色 (2.5 Y 2/1) シルトに細粒砂を含む。
- 2. 黄灰色 $(2.5 \, \text{Y} \, 4/1 \sim 5/1)$ シルト 層南側は、基盤層が流入し、ラミナ を形成する。
- 3. 黒褐色 (2.5 Y 3/1) シルトに細粒砂を含む。

(2) 検出した遺構と遺物

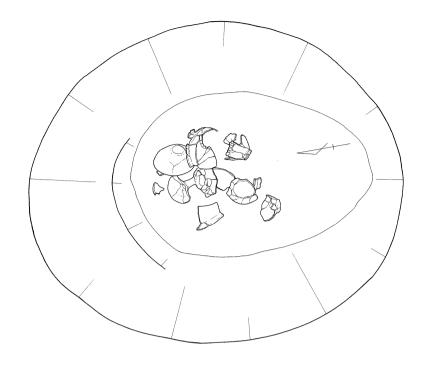
当調査区では、包含層および基盤層上面において 遺構を検出した。以下、これら検出した遺構につい て、その概要を述べることにする。

建物1 調査区南部で検出した南北1間 (2.1m) 以上、東西3間(5.0m)の側柱建物である。柱の配 置からみて、南辺に庇が付くものと考えられる。建 物の主軸方向は、N-82°-Eである。検出した8基の 柱穴のうち、6基には柱材が残存しており、これら の柱から東西辺の柱芯間は1.65mとなる。当建物は、 出土した遺物から7世紀代に位置付けられる可能性



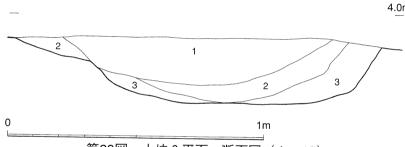


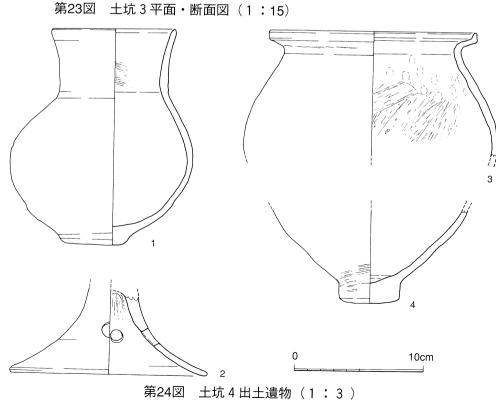
第22図 土坑2・6出土遺物(1:3)

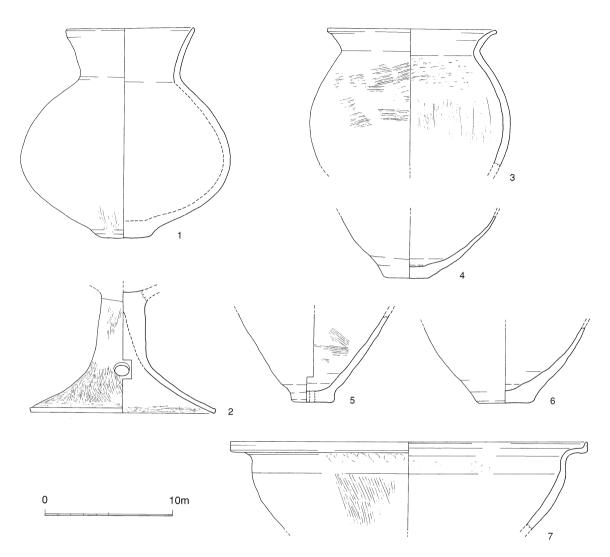


土坑 3

- 4.0m
 粒砂 北に向かって、シルトが多くなる。
 - 2. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂に シルトを含む。
 - 3. 暗灰色 (N3/0) シルト〜 中粒砂 同色シルトブロ ックを含む。







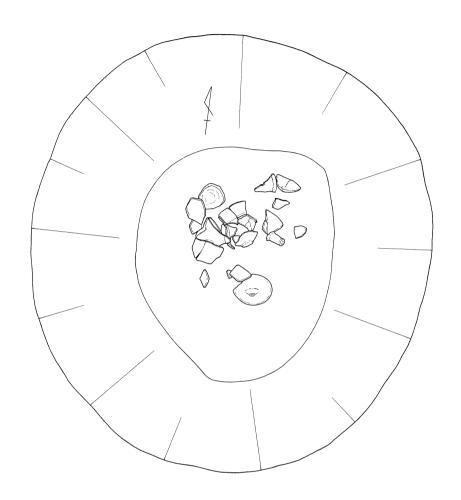
第25図 土坑 3 出土遺物 (1:3)

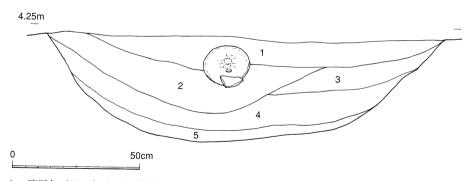
があるものの、包含層下層から掘削されていることから、それよりも新しくなる可能性が考えられる。

土坑1 東西長1.4m、南北長1.0m、深さ0.25mをはかる平面円形状を呈する大型土坑である。 埋土は基本的に自然堆積層であるが、下層には基盤層の2次堆積が認められる。なお、出土した遺物は細片に限られることから、遺構の時期は確定できない。ただ、周辺に点在する同様の大型土坑が弥生後期~終末期前半に求められる。よって、当該期の所産になる可能性が考えられる。

土坑 2 直径1.2m、深さ0.35mをはかる平面円形状を呈する土坑である。埋土等は、土坑 1 と共通する。土坑からは、土製紡錘車、砥石などが出土しているが、土器は細片が多く、時期は確定できない。ただ、周辺の大型土坑と同じく、弥生後期~終末期前半の所産になる可能性が考えられる。

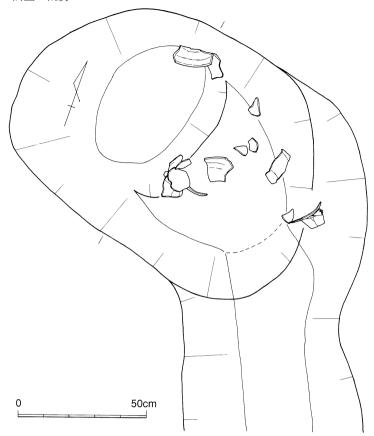
土坑3 南北1.4m、東西1.25m、深さ0.25mをはかる、平面円形状を呈する大型土坑である。

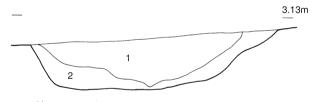




- 1. 暗灰色 (N3/0) 中〜細粒砂 土器片を多く含む。 2. 暗灰色 (N3/0) 中粒砂 同色シルトプロックを含む。土器大型片を多く含む。 3. 灰色 (N4/0) 中粒砂 4. 灰色 (N5/0) 中粒砂 (基盤層流入土)5. 暗灰色 (N3/0) シルトに中粒砂を含む。

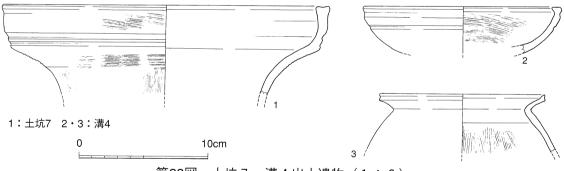
第26図 土坑4平面・断面図(1:15)





第27図 土坑7平面・断面図(1:15)

- 1. 黒色 (N2/0) 細粒砂~ シルト
- 2. 褐灰色 (10 Y R 6/1) 細 粒砂と黒褐色 (10 Y R 3/1) シルトのラミナ

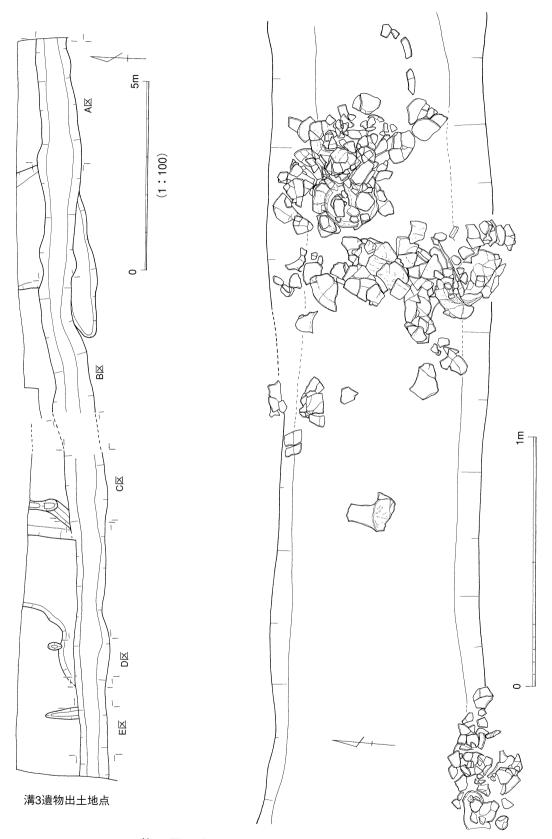


第28図 土坑7・溝4出土遺物(1:3)

上層から、弥生土器がまとまって出土した。これ以外の埋土に関する特徴は、土坑1と共通する。なお、出土した遺物から、土坑3は弥生時代終末期前半代と考えられる。

土坑4 南北1.4m、東西1.7m、深さ0.4mをはかる、平面楕円形状を呈する大型土坑である。 上層から、弥生土器がまとまって出土した。これ以外の埋土に関する特徴は、土坑1と共通する。 る。なお、出土した遺物から、土坑4は弥生時代終末期前半代と考えられる。

土坑5 直径0.9m、深さ0.15mをはかる、平面楕円形状を呈する大型土坑である。出土した



第29図 溝3 A区遺物出土状況(1:15)

遺物は細片にとどまり、時期は確定でき ないが、他の土坑と同時期と考えられる。

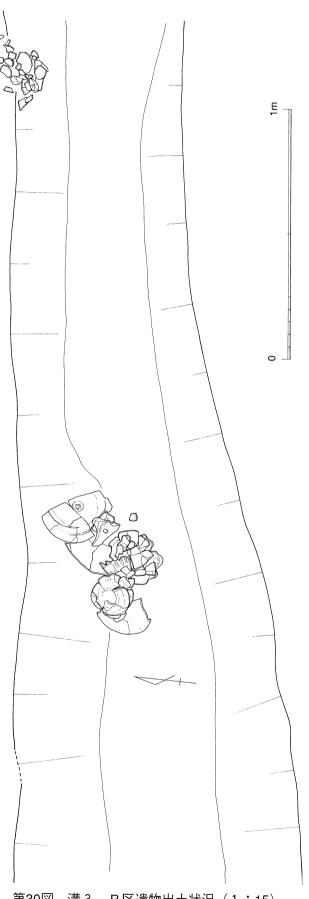
土坑6 直径1.7m、深さ0.45mをはか る、平面円形状を呈する大型土坑である。 埋土等の特徴は、土坑1と共通する。な お土坑6は、出土遺物の特徴からV様式 の所産と考えられる。

土坑7 南北幅0.9m、東西長1.45m、 深さ0.3mをはかる、楕円形状の平面形 を呈する土坑である。土坑の東側は溝4 と重複するが、埋土に大きな差はなく、 また同一個体の可能性が考えられる遺物 も出土していることから、同時期に埋没 した可能性が考えられる。

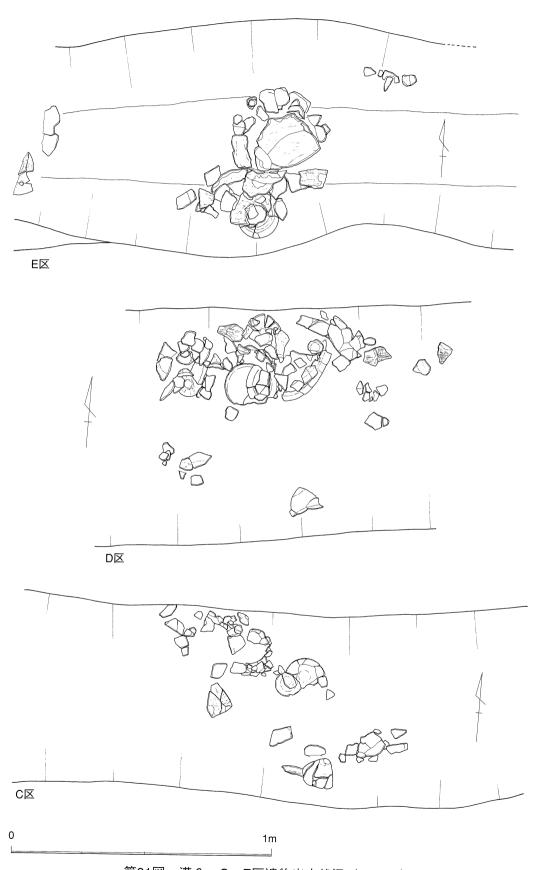
なお、埋土中層付近から、第28図に挙 げる土器が出土していることから、森田 編年でいうⅣ様式の所産と考えられる。

大型土坑について 当調査区からは大 型土坑6基を検出したが、これらの土坑 は平面円形状を呈し、下層埋土に基盤層 から流出した2次堆積土を多く含むこと で共通する。基盤層の2次堆積は、土坑 内において水位の急激な変化があったこ とを物語り、土坑が井戸として機能した ことを示唆させる。一方、土坑の掘削深 度は浅いもので15cmと、後世の削平を 加味しても井戸とするには浅すぎるもの も認められる。ただ、調査区が南から北 側の河道に向けて傾斜する地形的特徴 と、地下水位の高さを合わせて考えると、 水源の確保にそれほどの深度を要さなか ったとも理解できる。よって、大型土坑 は井戸として機能したものと想定する。

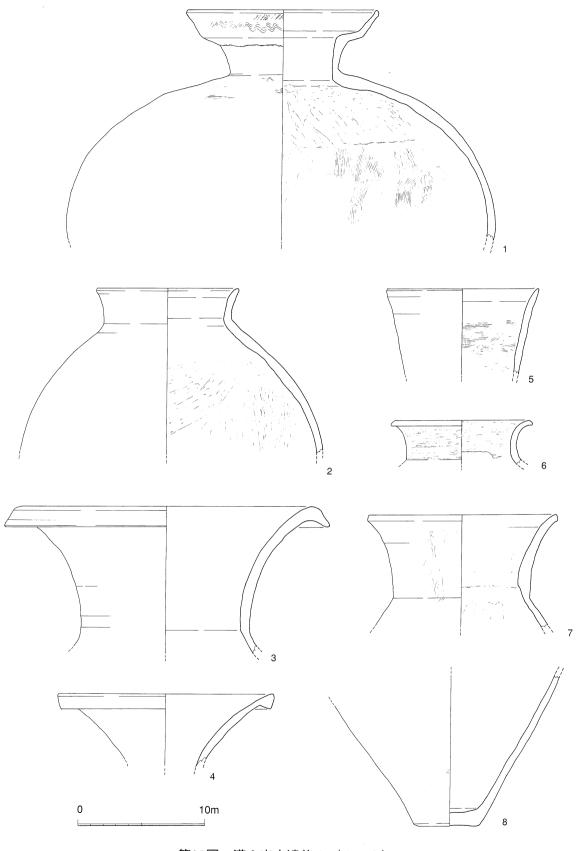
溝1・2 調査区の南端部で検出した



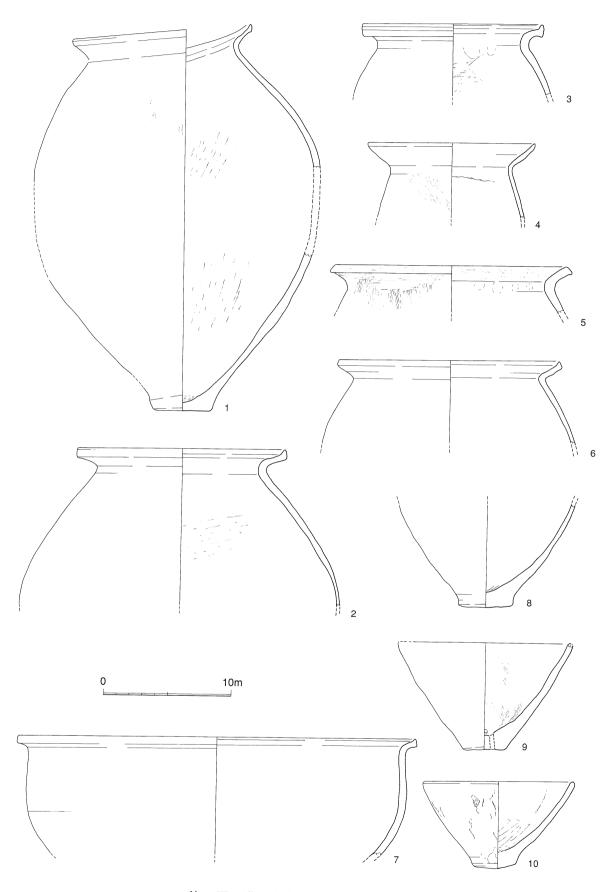
第30図 溝3 B区遺物出土状況(1:15)



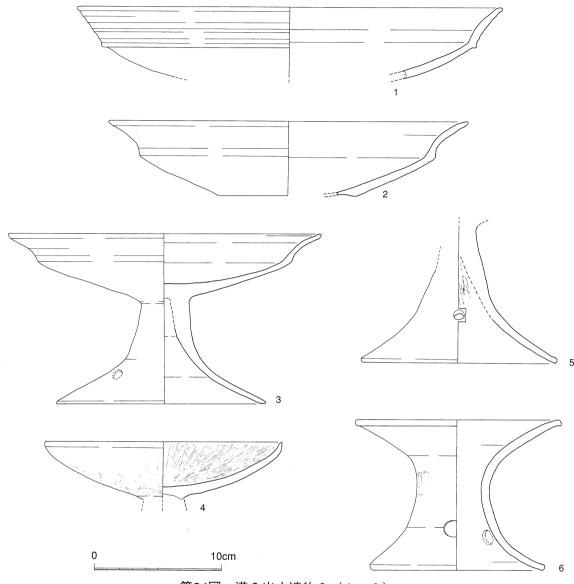
第31図 溝 3 C~E区遺物出土状況(1:15)



第32図 溝 3 出土遺物 1 (1:3)



第33図 溝3出土遺物2 (1:3)

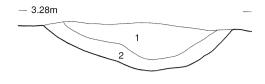


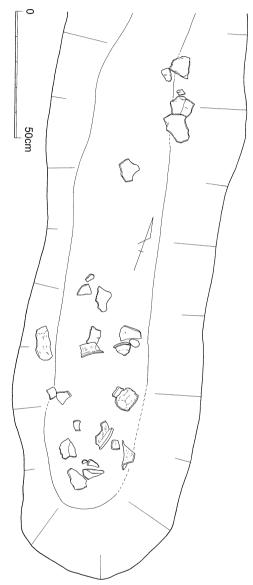
第34図 溝 3 出土遺物 3 (1:3)

幅0.4m、深さ5cm前後の溝である。ほぼ水平に掘削されること、また当調査区南側が豊島郡条里南条一里と仲条十一里の境界になることから、条里境に伴う可能性が考えられる。なお、溝から出土した遺物は、下層包含層からの混入品で占められており、時期は確定できない。しかし包含層上層の上面から掘削されていることから、10世紀以降の所産となる。

溝 3 調査区北側の河道南岸肩部上に掘削された溝で、幅0.7~1.0m、深さ15cm前後をはかる。最下層は基盤層の2次堆積土、中層~上層にかけては黒褐色粘土・灰色粘土が堆積する。下層上面から中層にかけて、弥生土器が数ブロックにまとまって出土した。出土した遺物には完形品やそれに近いものが多く、人為的に廃棄されたものと考えられる。

遺物の保存状態は極めて悪く、外面の調整が把握できるものは少ない。また、遺物の時期は一部IV様式に帰属するものもあるが、V様式からVI様式前半を中心とし、時期幅が認められる。





- 1. 黒色 (N2/0) 細粒砂~シルト
- 2. 褐灰色 (10 Y R 6/1) 細粒砂と黒褐色 (10 Y R 3/1) シルトのラミナ

第35図 溝4平面・断面図 (1:15)

これは、各ブロックの廃棄時期を反映したものと考えられる。なお、第34図1の二重口縁壷は、当地域における出現期の事例として注意される。また、第34図3・4は河内産の搬入品である。

溝 4 幅0.8m、深さ10cm、全長2.9mをはかる。 北端部には土坑7が掘削されている。土坑7とは、 埋土・遺物の出土状況から、同時期に埋没したも のと判断できるが、どのように機能したのかは不 明である。

集礫群 土坑5の東辺で、10cm大の玉石が直径 30cmの範囲で4個体ほどまとまって出土した。遺構の掘方等は確認できないことから、基盤層上面に意図的に放置された可能性が考えられる。性格・時期等については、不明である。

3. まとめ

今回の調査区では弥生時代中期末以降の大型土 坑・溝と7世紀以降の建物・条里溝等を確認した。 これらの遺構の時期は、弥生時代と古代に大別で きることから、それぞれについて調査成果の所見 を述べることにする。

弥生時代 弥生時代の遺構としては、これまで述べてきたように、大型土坑が挙げられる。しかし、集落に直接関連するような柱穴や竪穴住居等の遺構は確認されていない。また、調査区北端では、埋没河川が検出されており、また大型土坑が井戸として機能したことを考えるならば、集落周辺の水場的な位置にあったものと予想される。なお、当該期の集落は既往の発掘調査から、当調査区の西方に展開したことが判明している。

一方、これら大型土坑および溝の時期は、弥生

時代中期末から終末期前半に比定される。これは、当調査区西方に展開した集落が弥生時代中期末に出現した可能性を示すものと注目される。これまで、豊中市南部の沖積地における弥生 集落の本格的な展開は、弥生時代終末期にはじまると考えられてきた。しかし、今回の発掘調 査で、豊島北遺跡の出現が後期以前に遡ることで、豊中台地裾野における開発がかなり早い段階で本格化することが見通される。よって、各集落の展開やこれに伴う平野部の開発は一律には論じられず、開発が段階的に進行したものと見通した上で、個別集落の出現と展開を厳密に検討する必要が生じた。

古 代 今回検出した遺構は、建物1に限定される。建物1は出土遺物から7世紀以降の所産となる。これとほぼ同時期の建物群が、服部遺跡第4次調査で確認されており、建物1はこの建物群と一連の集落を構成する可能性が考えられる。なお、集落の時期については明確ではないものの、包含層下層の遺物から7世紀~10世紀頃と考えられる。10世紀以降の遺物はほとんど認められないことから、おそらくこの時期に集落は解体し、豊島北遺跡第3次調査区にみる散村へと変化するものと考えられる。

一方、包含層下層遺物の中には、瓦が若干数含まれていた。周辺に古代寺院は確認されていないが、丘陵裾野部にあたることから、豊中台地縁辺部に存在した可能性はあろう。これまで、古代寺院の存在は、金寺山廃寺以外に、北条遺跡第5次調査区および島田遺跡第1次調査区付近に想定されている。これら遺跡の周辺には中世に遡る寺院が存在することから、これら中世寺院との関連も注意する必要がある。なお、当調査区北東には、西琳寺という寺院があり、震災復旧工事の際、本堂の礎石に中世後期の大型五輪塔が転用されていたことが判明している。

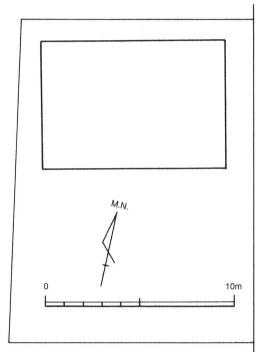
以上、当調査区周辺における各時期の集落については、まだ十分に解明されていない。しかし、今回の調査で示したとおり豊中市南部における開発等の問題に新たな所見を提示するなど、今後の調査によって市南部の歴史像を考える上で重要な手がかりが得られるものと期待される。よって、周辺における開発については、より慎重に行われることを提言したい。

第V章 本町遺跡第34次調査

1. 調査の経緯

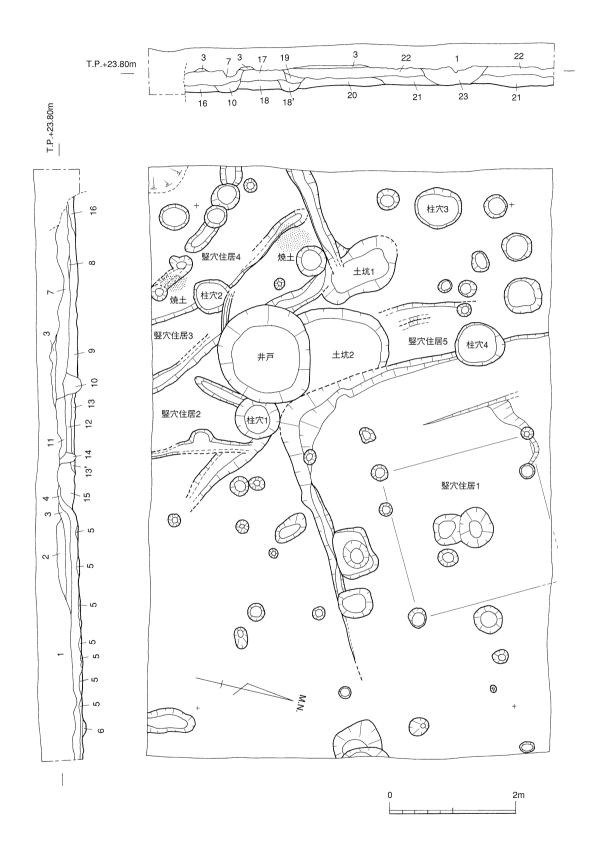
当調査区は、豊中市本町2丁目14-1 に所在する。平成19年6月6日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて平成19年7月5日に確認調査を行ったところ、申請地の西半部では地表下約45cmで須恵器片等を含む遺物包含層を確認し、東半部では遺物包含層が耕作によって削平を受けていたものの、地表下約67cmで遺構面を確認した。個人住宅建設に伴う基礎掘削時の地盤改良深度から遺構の損壊が免れないことが判明したため、協議の結果、本調査を実施することとなった。

調査は平成19年7月23日から平成19年8月18日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積から62.0㎡とした。



第36図 調査範囲図(1:200)





第38図 調査区平面・断面図(1:60)

【第38図の土色と土質】

- 1. 現代の整地土及び盛土。
- 2. 黄灰色 (2.5 Y6/1) シルト混中粒砂 $(\sim$ 細粒砂)。 ϕ 30mm以下の礫を5%程度含む。
- 3. 暗黄灰色 (2.5Y5/2) シルト混中粒砂 (~細粒砂)。 φ 30mm以下の礫を5%程度含む。
- 4. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混中粒砂 (〜細粒砂)。 φ30mm以下の礫を5%程度含む。基盤層ブロックを若干含む。
- 5. 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト混中粒砂 (〜細粒砂)。 ∮30m以下の礫を30%程度含む。基盤層ブロックを40%程度含む。 ※2〜5は調査区東半部に分布する耕作土(近〜現代)である。
- 6. 暗黄灰色(2.5Y5/2) 細礫(~細粒砂)。 満状の遺構埋土。
- 7. 黒褐色 (10YR3/1) シルト (~極細粒砂)。 φ3~5mmの細碟を多く含む。灰白色 (5Y8/2) 細粒砂ブロックを5%程度含む。住居の埋土。
- 8. 灰黄色 (2.5Y7/2) 細粒砂 (~シルト) のブロックが水平に葉理状に集積。土壁の崩壊土あるいは住居床面の再整地層。
- 9. 黒褐色 (10YR3/1) シルト (〜細粒砂)。灰白色 (2.5Y8/2) 極細粒砂ブロックを40%程度含む。住居床面の初期整地層。
- 10. 黒褐色(10YR3/2)シルト(〜細粒砂)。∮3mm以下の細礫を若干含む。基盤層ブロックを10%程度含む。住居壁溝埋土の可能性が高い。
- 11. 黒褐色(10YR3/1)シルト(\sim 細粒砂)。 ϕ 5mm以下の細礫を若干含む。基盤層ブロックを5%程度含む。住居の埋土。
- 12. 灰黄色 (2.5Y6/2) ~浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (~極細粒砂)。粘性が強い。黒褐色 (10YR3/1) シルトと基盤層ブロックを15%程度含む。
- 13. 浅黄色 (2.5Y7/4) シルト (~極細粒砂) 及び黒褐色 (10YR3/1) シルトと基盤層ブロックの混合層。12層とともに住居床面の整地層。
- 13'. 13層と酷似。重複(先行)する別住居の床面整地層。
- 14. 上部は11層と近似。下部は浅黄色 (2.5Y7/4) 粘土 (~シルト)。住居壁溝埋土の可能性が高い。
- 15. 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト (〜細粒砂)。 φ10mm以下の細碟を多く含む。基盤層ブロックを5%程度含む。上半部ほど色調明るく礫が少ない。
- 16. 灰白色 (2.5Y8/2) 極細粒砂ブロックの集積に黒褐色 (10YR3/1) シルト (~極細粒砂) を30%程度含む。住居床面の整地層。
- 17. 黒褐色(10YR3/2)シルト(〜細粒砂)。 ∮20mm以下の細礫を若干含む。基盤層ブロックを若干含む。
- 18. 黒褐色(10YR3/I)シルト(〜細粒砂)。 65㎜以下の細礫を若干含む。灰黄色(2.5Y7/2)シルトブロックを5%程度含む。住居床面の整地層。
- 18'. 18層と酷似。基盤層の含有率が少ない。住居壁溝埋土の可能性が高い。
- 19. 褐灰色(10YR4/1)~灰白色(2.5Y8/2)シルト(~細粒砂)。炭化物を若干含む。
- 20. 淡黄色 (2.5Y8/4) ~灰白色 (2.5Y8/2) 極細粒砂 (~シルト) ブロックの集積。住居床面の整地層。
- 21. 20層と近似するがやや色調暗い。22層ブロックを10%程度含む。重複(先行)する別住居の床面整地層。
- 22. 黒色(10YR2/1)~黒褐色(10YR3/1)シルト(~細粒砂)。 ϕ 20m以下の細礫を多く含む。基盤層ブロックを若干含む。
- 23. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂 (〜シルト)。 ∮ 10mm以下の細礫を多く含む。下部に基盤層ブロック多い。土坑状の遺構埋土。 ※基盤層は調査区東側では耕作時にシルト層が削平され堅緻な砂礫層が表面に露出、西側は灰白色 (2.5Y8/2) 〜浅黄色 (2.5Y7/4) シルト。洪 積層上部の堆積層である。

2. 調査の概要

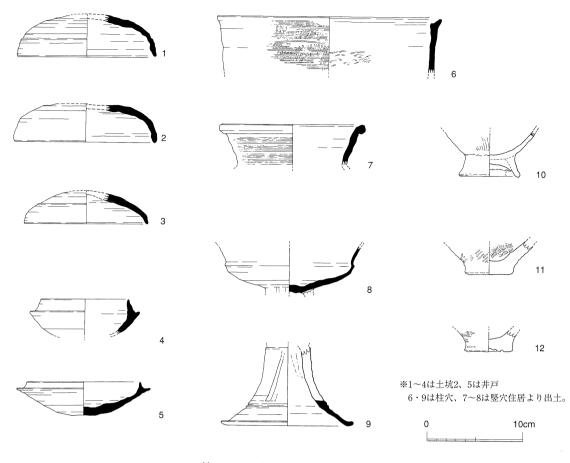
(1) 基本層序

調査区内は地表下約40cmまでが現代の盛土で整地されている。東半部では近~現代の耕作行為によって約60~70cm下部の洪積礫層まで削平が進行し、かろうじて遺構の痕跡がたどれる状況である。これに対して西半部では耕作単位による段差が設定されたことにより、削平深度が浅く、盛土直下に黒褐色系の遺物包含層及び遺構埋土が良好に遺存していた。その反面、やや土壌化の進んだこれら黒褐色系の堆積土の上面では色調や土質が平準化し、各遺構の平面プランを検出することが極めて困難な状況であった。西半部の基盤層は主として灰白色系のシルトであり、地表下約110cmで砂礫層に転じる(近世以降に掘削された井戸壁面で確認)。

(2) 検出した遺構と遺物

当該調査で検出した主な遺構としては、柱穴(ピット状のものを含む)約50基、土坑3基、 竪穴住居複数棟(壁溝状の遺構のみを含む)をあげることができる。柱穴のうち、大型のもの は掘立柱建物を構成するものと考えられる。出土遺物は大半が古墳後期で6世紀中頃以降に属 する須恵器群であるが、少量の弥生土器も含む。弥生土器は後期後半に属する甕、高杯等であ るが、遺構との直接的な関係を明らかにできたものはない。後述する土坑が調査区内では最古 の遺構であり、弥生後期に帰属するものである可能性が考えられる。

調査区東半部に位置する竪穴住居1は、住居の南西角を中心に南辺と西辺が検出されたが、 東側は耕作で削平され、北側は調査区外のため、全容を明らかにはできなかった。復元される



第39図 出土遺物 (1:4)

平面形はやや東西に長い長方形で、東西約5.5m、南北約5mを測る。主柱穴は北東を除いて3基が検出され柱間約2.4mを測り、各々が砂礫層にまで達する深度を有する。調査区南西側に複数の竪穴住居が重複して検出されたが、平面プランを明確にはできなかった。2箇所に焼土の集積が認められ、甑片も出土していることから竈を伴っていたことがわかる。また、黄灰色のブロック土が層状に集積していたことから、壁面が土壁状に構築されていた可能性がある。竪穴住居群は6世紀中葉に成立し後半代に廃絶したものと考えられる。竪穴住居が廃絶した後に掘立柱建物が建築され、大型の柱穴等が検出されるが、今回の調査区内ではその規格を明らかにはできなかった。概ね6世紀末頃までには掘立柱建物群も廃絶した可能性が高い。最古の遺構である土坑2は長方形のプランを持ち、土坑墓の可能性も考えられる。遺物はほとんど伴わないが弥生後期に帰属する可能性がある。

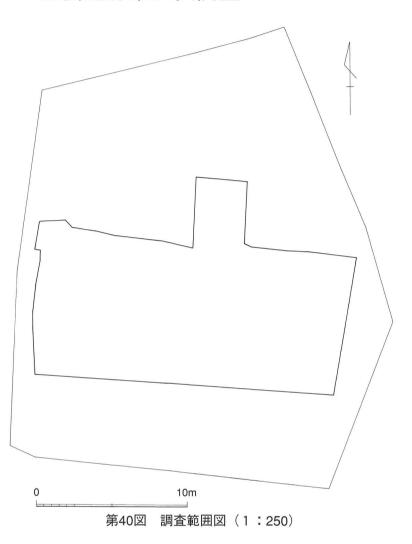
3. まとめ

今回の調査では、主として古墳後期の竪穴住居から掘立柱建物へと変化する集落の形態を周辺での調査事例と同様に確認できた。しかしながら、各住居の平面形や建物の規模等を明らかにできなかったため、隣接地等での今後の調査で確認していく必要がある。

第Ⅵ章 穂積遺跡第36次調査

1. 調査の経緯

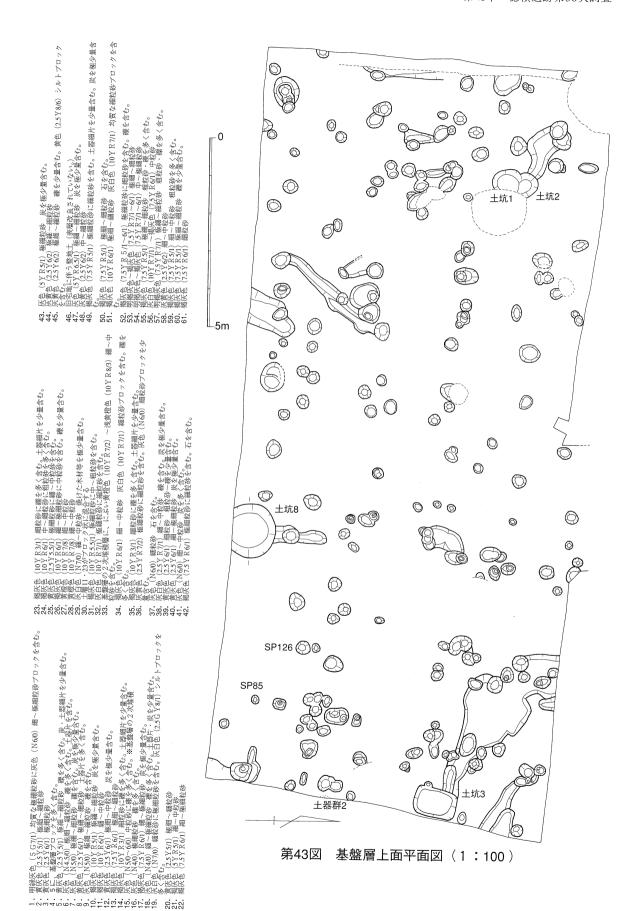
当調査区は、服部元町1丁目 118、118-2に所在する。平成 19年6月19日に、共同住宅建築 に伴う埋蔵文化財発掘の届出が 提出され、これを受けて平成19 年8月9日に確認調査を実施し た。この結果、現地表下75cmの ところで遺物包含層を、また基 盤層上面において遺構を確認し た。計画中の建物は、これら遺 構面を著しく損壊することから、 記録保存の必要性が生じた。以 上をふまえ、施主・建築業者と 協議を行ったところ、平成19年 8月27日から10月23日の日程で、 建築範囲を対象に本調査を実施 することになった。なお、当事 業は、調査経費の一部を補助事 業の対象としている。



第41図 調査地位置図(1:5,000)



第42図 調査区平面・断面図(1:100) 2面合成

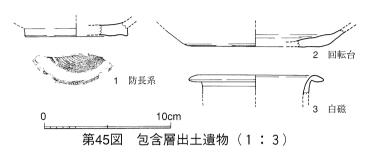




第44図 包含層上面平面図(1:100)

(1) 基本層序

当調査区では現地表下75cmのところで包含層を、85cmのところで基盤層を検出した。ところで、調査区は服部村集落内にあって、長く宅地として利用されてきた。このため、今回調査対象とした遺構



面にいたる各層の上面からも遺構が掘削され、生活面を形成するものと考えられる。しかし、 旧建物の解体により、現地表下40cmまでは表層地盤改良によって攪乱され、中世末期以降の遺 構面ならびに遺構の様相は十分把握できなかった。

一方、地表下40cm以下については、黄橙色細~中粒砂層(28層)、褐灰色極細粒砂層(11層)、今回の調査で遺物包含層して扱った褐灰色砂礫層(14・23層)、そして基盤層の順に堆積する。このうち、28・11層は水成層で、11層の堆積時期は溝2から15世紀後半以降となる。また、第5層は掘方が明確ではない土器群3の存在や、掘削面が明確に把握できない柱穴から、建物群の展開過程において形成したものと判断する。その堆積期間は明確にはできないが、12世紀中頃までと想定する。

なお、今回の調査では包含層上面と基盤層上面の2面を対象としたが、各層の柱穴によって 建物を復元されたことから、柱穴について上下層の時間差は設定しなかった。

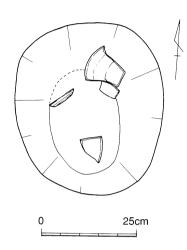
包含層からは在地産の土器類と共に、第45図に挙げる特殊な遺物が出土した。このうち、1 は防長系土師器椀の底部である。その特徴から、山口県西部のものと言え、瀬戸内水運と内陸 流通を考える上で重要な資料となる。また、3の白磁四耳壷は小型品ではあるが、当調査区に 展開した建物群の経済力を示す遺物となる。

(2) 西部建物群の様相

建物1 東西3間 (7.1m)、南北4間 (7.7m) 以上をはかり、面積は50㎡を越える。北東角と中央部の柱穴がないが、総柱建物と言える。建物の主軸方向は、N-8°-Eである。建物の規模・構造から、西部建物群の主屋と考えられる。ただし、柱の付け替えに伴う柱穴の重複もないことから、建物の継続期間は短かったと考えられる。

柱穴からは第47図1・2が出土した。このうち、1は和泉型瓦器椀 Π -2期の所産で、建物が12世紀前半を中心とする時期の所産になることを示す。また、2は東播系とは考えにくい須恵器椀で、搬入供膳具となる。

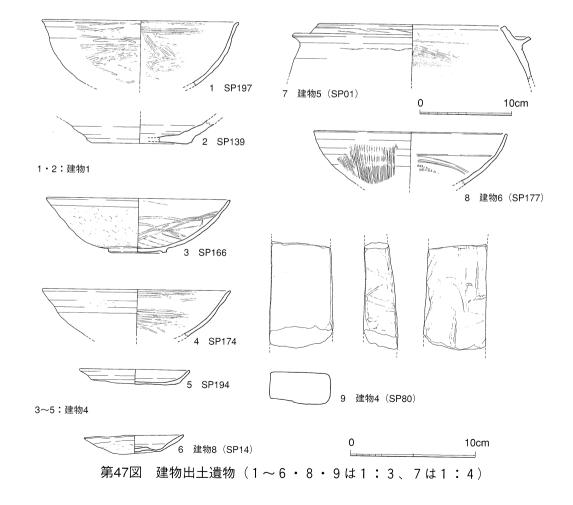
建物2 検出した範囲では、東西2間 $(5\,\mathrm{m})$ 、南北2間 $(5\,\mathrm{m})$ の総柱建物になる。しかし、東辺の柱穴は特に大きいことから、建物の大部分は調査区外にあるものと考えられる。建物の主軸方向は、N-6°-Eである。建物2の時期は明確にはできないが、主軸方向から建物1に前後するものと考えられる。

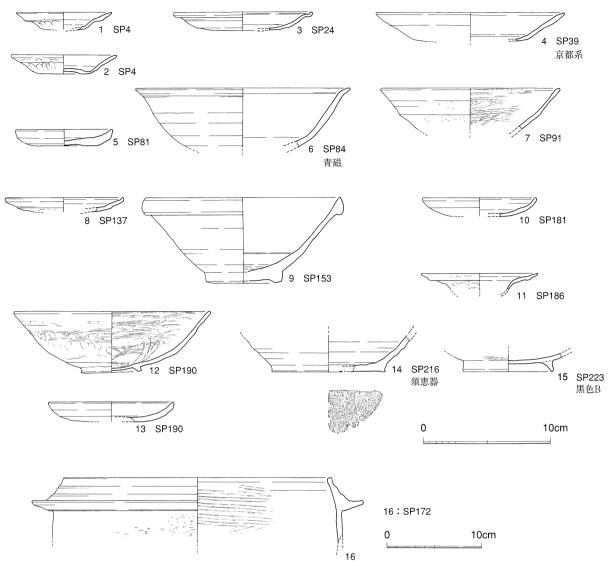


第46図 S P 190遺物出土 状況 (1:10)

建物3 調査区北部で検出した南北1間(2.5m)以上、東西1間(2.0m)以上の総柱建物と考えられる。主軸方向はN-14°-Eである。検出範囲が限定され、周辺の状況が把握でないことから、当建物群に帰属するかは、判断できない。

その他の柱穴 当調査区からは多数の柱穴が検出されたとおり、これ以外にも建物が多くあったことが予見できる。これら柱穴の出土遺物をみると、最も古いものはSP223から出土した第48図15の黒色土器B類椀(11世紀前半)がある。次いで、SP137から出土した第48図8の土師器小皿は、11世紀末の所産である。また同時期のものが、SP184・216などからも出土している。以後、12世紀から13世紀後半にかけての遺物が柱穴から





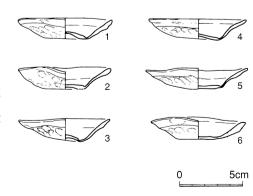
第48図 その他の柱穴出土遺物 (1:3、16のみ1:4)

出土するが、明らかな14世紀の遺物はない。SP223のように11世紀前半の遺物もあるが、11世紀後半の遺物は全く出土しないことから、この時期は単発的に建物が展開しただけにとどまるものと考えられる。よって、当建物群は11世紀末に成立し、以後安定的に14世紀まで継続する。

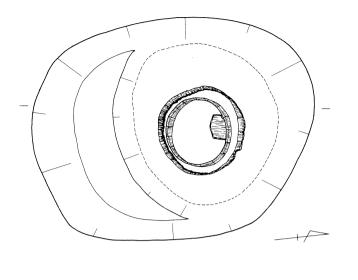
建物群の廃絶は、集村化を背景とする移動によるもの であろう。

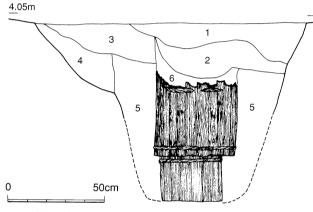
なお、SP190からは、第48図 $12\cdot 13$ の遺物が出土している。このうち12は、和泉型瓦器椀 II-2期の所産となる。また、SP216からは、同図14の東播系の可能性がある須恵器の椀もしくは鉢の底部が出土した。

S P 112 (土器埋納坑) 東西0.5 m、南北0.4 m、深さ5 cm前後をはかり、楕円形状の平面形を呈する。



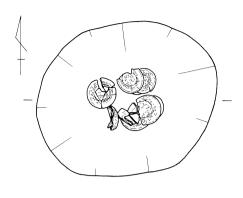
第49図 S P 112出土遺物 (1:3)

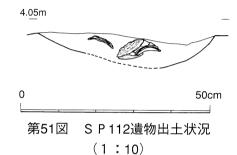




- 灰色 (5 Y 6/1) 細粒砂 黄色 (2.5 Y 7/8) シルト等のプロックを含む。
 灰色 (N 6/0) 細 極細粒砂 黄橙色 (10 Y R 7/8) シルトプロック等を含む。
 2 と同じであるが、プロックの流入方向が異なる。
 灰色 (N 5/0) 細 極細粒砂 同色粘土プロックを含む。層上部に礫を多く含む。
 灰色 (N 5/0) 極細粒砂 炭・土器を少量含む。
 灰色 (N 4/0) 極細粒砂 マシルト

第50図 井戸1平面・断面図(1:20)



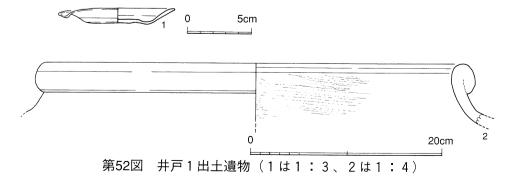


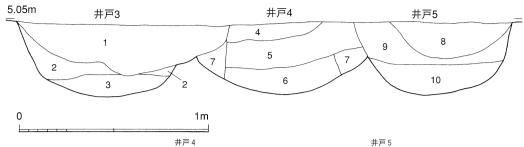
第49図に挙げた6個体以上の土師器小皿 が、伏せた状態で出土した。遺物の配置 状態に規則性は認められないが、すべて 在地産の小皿で、伏せて埋納されている ことで共通する。遺物から15世紀代の所 産と考えられる。

土坑1・2 直径0.6m前後、深さ0.2

mをはかる、円形状の平面形を呈する土坑である。当初、土壙墓の可能性を想定して掘削した が、断面観察用の畦を掘削した結果、2基の土坑が重複することが判明した。土坑の性格は判 断しにくいが、井戸の可能性が考えられる。なお、出土遺物から11世紀末の所産と考えられる。

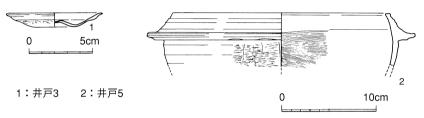
井戸1 南北1.5m、東西1.15m、深さ約1mをはかり、楕円形状の平面形を呈する井戸であ る。井筒は底板を抜いた桶を2段に重ねる。上段の桶は、直径45cm、高さ45cm、下段は直径



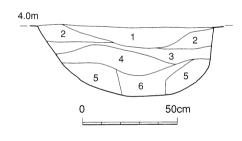


- ... 1. 灰色 (5 Y 6/1) 細粒砂 礫を多く含む。基盤層・ 黄色 (2.5 Y 7/8) シルト等のブロックを多く含む。 2. 灰色 (N 6/0) 細~極細粒砂 黄色 (2.5 Y 7/8)
- 2. (NOO) 編 極細症の 寅已(2 シルト等のブロックを多く含む 3. 灰色(N5/0) 細粒砂 礫を多く含む。
- 4. 黄灰色 (2.5 Y 5.5/1) 細~極細粒砂 基盤層ブ
- ロックを多く含む。4 5. 褐灰色 (10 Y R 5/1) 細~中粒砂 粗粒砂・礫 を多く含む。基盤層ブロック・炭を極少量含む。 6. 灰色 (N 4/0) 極細粒砂 層中部に基盤層ブロ
- ックを多く含む。6 7. オリーブ灰色(2.5 G Y 6/1) 細~極
- 8. 灰色 (5Y5/1) 極細粒砂に礫~粗粒砂を少量含
- (515/1) 極細心砂に保む。基盤層ブロックを含む。9. 灰色 (5 Y 5/1) 極細〜細粒砂10. 灰色 (N 5/0) 極細〜細粒砂シルトブロックを極少量含む。 礫を多く含む。 灰白色 (N8/0)

第53図 井戸3~5断面図(1:20)



第54図 井戸3・5出土遺物(1は1:3、2は1:4)



30cm、高さ30cmをはかる。上層から出土した遺物に第 52図の土師器小皿、V期の備前焼甕口縁がある。15世紀 後半以降の所産と考えられる。

井戸2~5 4基の井戸が東西に並ぶ状態で検出され た。いずれも、直径1m前後、深さ0.45m程度をはかる。 土層の堆積状況から、井戸4→井戸5・3の順で掘削さ れる。また、井筒の部材は残存していなかったが、曲物 を使用した可能性が考えられる。出土遺物から、井戸3 は15世紀後半、井戸5は15世紀中頃の所産と考えられる。

- 1. 灰色 (5 Y 6/1) 細粒砂 礫を多く含む。
- 2. オリーブ灰色 (10 Y 6/2) 細粒砂 礫を多く含む。 3. 灰色 (N 6/0) 細~極細粒砂

- 次色 (N600) 細~極細起砂
 養灰色 (7.5 Y6/1) 中~粗粒砂
 薬・石を多く含む。
 オリーブ灰色 (2.5 G Y6/1) シルトブロック
 黄橙色 (10 Y R 7/8) シルトブロック間に黄灰色 (7.5 Y6/1) 中~粗
- 6. 灰白色 (N7/0) 極細粒砂~シルト 層上部に礫を多く含む。

第55図 井戸2断面図(1:20)

(3) 東部建物群の様相

建物4 東西2間 (5.0m)、南北3間 (5.0m) をはか る、総柱建物である。建物の主軸方向は、N-17°-Eであ る。複数の柱穴が重複する状況で検出されていることか

ら、柱の付け替えが何度も行われた可能性が考えられる。建物の規模から、付属家屋と位置付 けられる。第47図3~5・9の遺物が出土している。このうち、3・4はⅢ-2期の和泉型瓦 器椀で、建物は13世紀初頭残後の所産と考えられる。

建物5 南北3間(4.0m)、東西1間(1.3m)以上の掘立柱建物である。建物の大半は調査 区外に広がるため、規模・構造は明確ではないが、その規模から付属家屋と考えられる。建物

の主軸方向は、N-17°-Eである。SP01から第47図 7 の瓦質足釜のほかに、IV期の和泉型瓦器椀が出土した。

建物 6 東西 2 間 $(4.8\,\mathrm{m})$ 、南北 1 間 $(1.6\,\mathrm{m})$ 以上の総柱建物である。建物の大半は調査区外にあるため、規模は確定できないが、付属家屋となる可能性が考えられる。建物の主軸方向は、W-1°-Eである。SP177から第47図8の同安窯系青磁碗が出土しており、12世紀後半以降の所産と考えられる。

建物7 東西2間 (3.7m) 以上、南北2間 (3.2m) の側柱建物と考えられる。図化できる遺物は出土していないが、SP23からII-3期あるいはIII-1期の可能性がある和泉型瓦器椀が出土している。

建物8 東西2間 (3.5m) あるいは4間 (7.7m)、南北1間 (2.1m) 以上の総柱建物と考えられる。SP14から、第47図6の土師器小皿が出土していることから、中世後期の所産となる。建物の主軸方向はN-13°-Eであるが、同時期の溝 $1\cdot2$ と主軸方向が異なることから、建物の復元には検討の余地を残す。

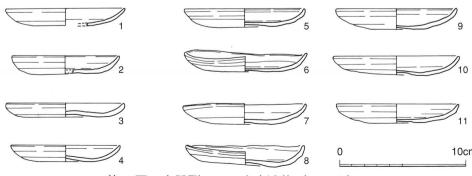
その他の柱穴 柱穴のうち、古いものは第48図3が出土したSP24で、11世紀末に比定できる。12世紀前半の遺物は認められず、12世紀中頃から中世後期にいたる遺物が出土している。また、東部建物群では主屋級の建物は復元できないことから、建物群の中心部は調査区東方一帯にあると考えられる。よって、東部建物群が11世紀末には成立し、その後中世後期まで安定的に継続するものと考えられる。



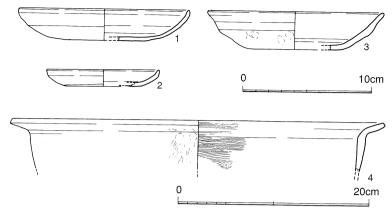
第56図 土器群 2 遺物出土状況



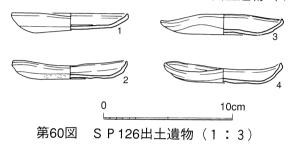
第57図 土器群 3 遺物出土状況



第58図 土器群2・3出土遺物(1:3)



第59図 SP85出土遺物(1~3は1:3、4は1:4)



なお、SP85は、柱抜き取り後に第59図の 土師器大皿・小皿・鍋が埋められていた。また、土器群 2 も SP85と同じく、第58図 $1\sim$ 4 にみる土師器小皿が埋められていた。

S P 126 (土器埋納坑) 東西38cm、南北32cm、深さ3cmをはかる小ピットである。

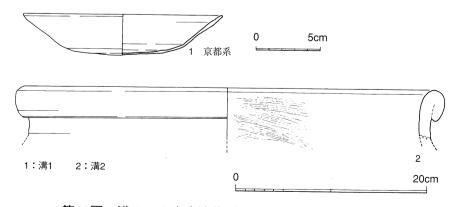
包含層上面から掘削された遺構であるため、本来は15cm程度の深さになるものと考えられる。ピット内からは、第60図 $1\sim4$ にあげる小皿が8個体以上出土した。遺物から、12世紀後半頃の所産と考えられる。

0 25cm 第61図 S P 126遺物出土状 況(1:10)

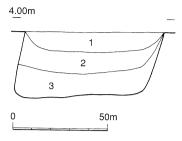
土器群 3 包含層掘削時に、土器がまとまって出土したが、 遺構としては把握できなかった。第58図 $5\sim11$ の土師器小皿から、12世紀中頃の所産と考えられる。

溝 1 建物群の北辺・西辺に、巡らされた区画溝である。 検出面上では、幅0.4mであるが、南壁面から幅1.2m、深さ15cmの規模になる。第62図1の京 都系土師器皿が出土している。15世紀後半の所産である。

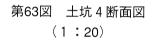
溝 2 東部建物群外周に巡らされた区画溝である。検出面上では幅60cm程度であるが、第

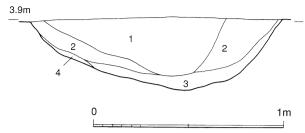


第62図 溝1・2出土遺物(1は1:3、2は1:4)



- 1. 暗灰色 (N3/0) 極細粒砂 礫を多く含む。
- ・ 選級管プロックを権少量含む。 ・ 灰色 (7.5 Y 4/1) 極細粒砂 石を多く含む。 基盤層プロックを少量含む。土器細片を極少量 含む。 3. 灰色 (N 4/0) 極細粒砂~シルト 基盤層ブ





- 暗灰色 (N3/0) 極細粒砂 碟を多く含む。基整層ブロックを極少量含む。
 灰色 (7.5 Y 4/1) 極細粒砂 石を多く含む。基盤層ブロックを少量含む。土器細片
- 3. 灰色 (N 4/0) 極細粒砂~シルト 基盤層ブロックを含む。

第64図 土坑 8 断面図(1:20)

4層から掘削されている。南壁面から幅0.8m、深さ25cmの 規模になる。北端部は東向きに屈曲するが、北辺は削平され

ている。溝2からは、V期の備前焼甕口縁部が出土している。頸部の傾きに違和感を感じるが、 焼け歪みによるものとして扱った。基本層の堆積時期から16世紀代と考えられる。

土坑 4 長軸長1.3m、幅0.75m、深さ0.4mをはかり、隅丸長方形状の平面形状を呈する。検 出当初、土壙墓の可能性を想定したが、墓の特徴を示すような遺物は全く出土しなかった。埋 土には基盤層ブロックを多く含み、土坑は人為的に埋められている。同じ平面形状の土坑はほ かにも点在するが、土壙墓の特徴を示すものはなかった。

土坑8 直径1.3m、深さ0.4mをはかり、円形状の平面形を呈する。最下層には、基盤層の2 次堆積が認められる。上層埋土は大きく2層に区分できるが、土質が異なることから井戸と考 えられる。ただし、井筒などの部材が出土しなかった。

3. まとめ

当調査区では東西2群の建物群を検出した。そこで、これら建物群毎の展開を整理した上で、 服部村集落における建物群の意義について検討する。

東西建物群の展開 当調査区では、11世紀前半に建物が出現すると考えられるが、これは短 期間のうちに廃絶し、11世紀後半に続かない。東西建物群が出現するのは、11世紀末である。 二つの建物群は共に12世紀以降も安定的に継続する。しかし、集村化が行われる13世紀後半を もって西部建物群は廃絶し、敷地は一旦耕地化する。一方、東部建物群は14世紀以降も継続し、 15世紀には区画溝を巡らすようになる。また、15世紀になると、西部にも再び建物群が出現す ることから、この時期には集落域が拡大したものと考えられる。

このように、東西建物群は同じ集落内にあって、ほぼ同時期に出現しながら、集村化を契機 に異なる展開をすることが判明した。

服部村集落における東西建物群の位置 中世における服部村集落については、これまでの発 掘調査から、第23次調査区の建物群を中心に11世紀後半に形成されることが明らかになってい

る。それ以後、集落域は同心円状に拡大し続け、13世紀には第23次調査区の建物群の北方200mまで範囲を広げる。しかし、13世紀後半に集村化し、近代の服部村の原型を形成する。このような集落の展開過程において、当調査区で検出された東西建物群は、どのように位置付けられるのであろうか。

まず、当調査区は、近代服部村集落の北辺部に位置する。また、服部村集落の中心的存在と目される第23次調査区からは、約100mほど離れている。11世紀後半に形成された集落が、第23次調査区周辺に限定されることは、同じく23次調査区の北方50mに位置する第12次調査区の状況から判断できる。

一方、東西建物群が出現するのは11世紀末であり、服部村の成立からやや遅れる。また、11世紀後半の集落域からも離れていることは、これらの建物群が集落の拡大過程で出現したことを意味する。ところで、13世紀後半の集村化によって、西部建物群が移動する中、東部建物群はその位置を変えずに展開し続ける。これは、服部村集落が集落の位置を変えずに、集村化を行ったことによるものと考えられる。

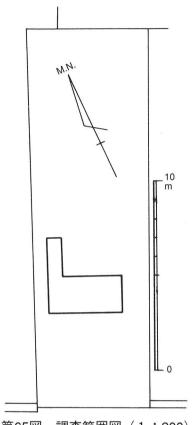
以上より、当調査区における建物群の展開を、中世服部村集落の展開の中で位置付けてみた。 その結果、集落の変遷過程の中に、建物群の展開が整合的に位置付けられることが確認できた。 現在、日本各地で中世の集落遺跡が多く発掘調査されている。しかし、個々の建物群の展開を 集落の変遷過程の中で捉えられる遺跡は数少ない。そうした中で、服部村集落の事例は豊中市 のみならず、全国的に見ても貴重な事例になろう。よって、今後とも周辺の開発にあたっては、 慎重を期すことを提言したい。

第Ⅲ章 桜塚古墳群第10次調査

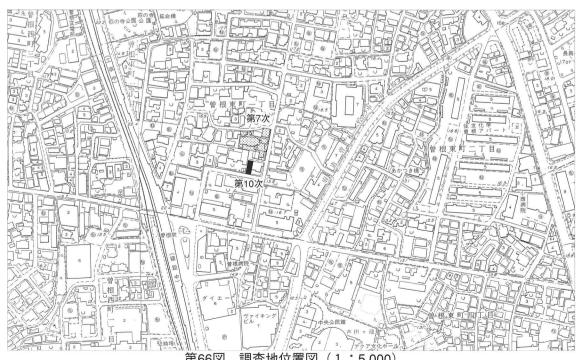
1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市曽根東町1丁目66-3に所在する。平成19年4月27日に提出さ れた埋蔵文化財発掘の届出に基づいて平 成19年5月17日に確認調査を行ったとこ ろ、申請地の南半部において地表から約 15cm下部で古墳の周濠埋土及び埴輪片を 確認した。個人住宅建設に伴う基礎掘削 時の深度が遺構検出面より深くなる部分 について、遺構の損壊を免れないことが 判明したため、協議の結果、本調査を実 施することとなった。

調査は平成19年9月10日から平成19年9 月14日にかけて実施し、調査面積は古墳 周濠の南辺肩部を中心に北辺肩部を部分 的に確認できる範囲を含め9.0m²とした。

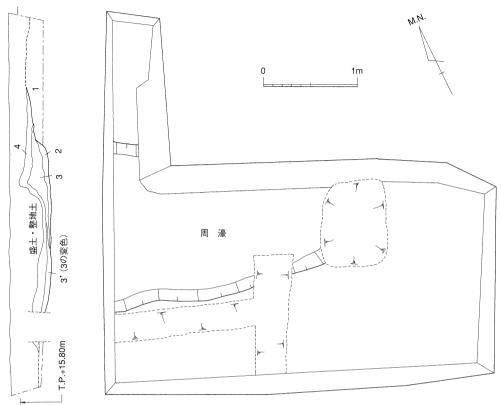


第65図 調査範囲図(1:200)



第66図 調査地位置図(1:5,000)

- 1. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(〜極細粒砂)。均質で堅緻。70%以上が第二酸化鉄により黄橙色(10YR7/8)を呈する。洪積層上部。基盤層。
- 2. 灰黄褐色 (10YR4/2) ~褐灰色 (10YR5/1) シルト (~細粒砂)。土質は基盤層に似るが砂粒多く、3層ブロックを含む。周濠最下層。
- 3. 褐灰色 (7.5YR4/1) シルト (~粘土)。細礫を若干含む。基盤層ブロック、埴輪片を多く含む。
- 4. 灰黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 (~シルト)。近世~近代に周濠凹部を埋め戻した盛土。



第67図 調査区平面・断面図(1:40)

2. 調査の概要

当該調査区の隣接地では、既往の本調査及び確認調査によって古墳の周濠が検出されている。 平面プランとしては、類似例が見つからないほど非常に小型ながら前方後円形をなす復元がされており、当該調査区では前方部中央の周濠が位置する推定がなされていた。

今回の調査では、従前の建築等による削平が顕著であったが、周辺同様に古墳周濠と考えられる堆積土を検出した。周濠は東西方向に掘削されており、東側では幅約1.8mを測る。残存していた埋土はわずかであるが、底面のレベルは西側に向かって高くなり、調査区中央付近で消滅する。前方後円形の復元が正しいとすれば、古墳前方部にブリッジ状の遺構があった可能性も考えられるが、あまりにも周濠の残存状況が悪く、現状では確定的な形状の復元をすることはできない。出土した埴輪片はいずれも表面が剥離した細片で、タテハケが施されている以外には記載すべき特徴がないが、周辺事例と同様に5世紀後半の所産と考えられる。

桜塚古墳群中においても最南端のグループにあたる周辺の古墳は、いずれも残存状況が悪く、 その規模や平面形が不明瞭で、主体部も一切検出されておらず詳細が不明であるが、5世紀後 半代に出現する小規模古墳群との対比において重要な位置を占めることは間違いない。今後の 調査と資料の蓄積がまたれる。

第四章 確認調査の成果

確認調査の概要

昨年度1月~3月および今年度4月~12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、45件を数え、昨年度11件、今年度34件という内訳である。このうち、12件の調査で遺構等が確認され、うち3件については協議の結果、山ノ上遺跡第17次調査、小曽根遺跡第28次調査及び桜塚古墳群第10次調査として本格的な発掘調査を行なうこととなった。残り9件については、建物基礎の設計変更などから、本格的な発掘調査には至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第68図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第1表 確認調查一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	面積 (m²)	遺構等 の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	少路遺跡	春日町1丁目46-1の一部、59-2	20070104	個人住宅建設	80.14	無	着工	陣内	
2	山ノ上遺跡	立花町1丁目110-1、128-3	20070104	寺院建設	190.64	有	本調査(山ノ上17次)	陣内	
3	豊島北遺跡	曽根南町1丁目152-5	20070125	個人住宅建設	40.15	無	着工	橘田	
4	穂積遺跡	服部寿町2丁目1344	20070201	個人住宅建設	27.53	有	慎重工事	橘田	計画変更
5	蛍池遺跡	蛍池中町2丁目68-1の一部	20070301	個人住宅兼事務所建設	67.07	#	着工	陣内	
6	山ノ上遺跡	宝山町27の一部	20070315	個人住宅建設	46.20	有	慎重工事	陣内	計画変更
7	太鼓塚古墳群	永楽荘 2 丁目150-3	20070315	個人住宅建設	57.96	無	着工	陣内	
8	太鼓塚古墳群	永楽荘 2 丁目150-1	20070315	個人住宅建設	53.98	無	着工	陣内	
9	桜井谷窯跡群	上野西2丁目138-32	20070315	個人住宅建設	92.54	未確認	着工	陣内	
10	桜井谷窯跡群	上野東3丁目535	20070315	個人住宅建設	158.51	無	着工	陣内	
11	桜井谷窯跡群	東豊中町3丁目199-1	20070316	個人住宅建設	165.68	無	着工	陣内	
12	本町遺跡	本町4丁目76-2	20070405	個人住宅建設	75.18	未確認	着工	陣内	
13	庄内遺跡	庄内西町4丁目57-3の一部	20070419	個人住宅兼店舗建設	41.25	無	着工	陣内	
14	桜井谷窯跡群	熊野町4丁目247-2,3、249-1	20070419	個人住宅建設	61.28	無	着工	陣内	
15	太鼓塚古墳群	永楽荘2丁目286	20070426	個人住宅建設	88.46	無	着工	陣内	
16	原田遺跡・原田城跡 (北城)	曾根西町4丁目198-1	20070426	個人住宅建設	55.06	未確認	慎重工事	陣内	
17	小曽根遺跡	北条町1丁目297-6	20070502	個人住宅建設	36.86	有	本調査 (小曽根28次)	橘田	
18	新免遺跡	玉井町2丁目185、185-2~5	20070502	個人住宅建設	112.88	有	慎重工事	橘田	基礎深度法
19	勝部東遺跡	勝部1丁目80-6	20070510	個人住宅建設	302.72	有	着工	橘田	遺構希薄
20	下原窯跡群	南桜塚 4 丁目90-1	20070510	個人住宅建設	63.95	無	着工	橘田	
21	桜塚古墳群	曾根東町1丁目66-3	20070517	個人住宅建設	70.80	有	本調査(桜塚古墳群10次)	橘田	
22	本町遺跡	本町2丁目39	20070531	個人住宅建設	53.87	有	慎重工事	陣内	基礎深度涉
23	桜塚古墳群・岡町北遺跡	岡町北1丁目45-3,4	20070607	個人住宅建設	90.40	無	着工	陣内	
24	新免遺跡	末広町1丁目40、40-2,3	20070614	個人住宅建設	307.22	無	着工	陣内	
25	原田遺跡	原田元町2丁目66-4	20070614	個人住宅建設	70.06	無	着工	陣内	
26	山ノ上遺跡	宝山町6-9	20070614	個人住宅建設	49.32	無	着工	陣内	
27	庄内遺跡	庄内西町4丁目59-6,9	20070614	個人住宅兼店舗建設	64.38	無	着工	陣内	
28	穂積遺跡	服部元町1丁目51-2	20070705	個人住宅建設	57.98	無	着工	陣内	
29	穂積遺跡	服部元町1丁目52	20070705	個人住宅建設	82.46	無	着工	陣内	
30	蛍池北遺跡	蛍池北町1丁目141-5	20070719	個人住宅建設	47.71	無	着工	陣内	
31	熊野田遺跡	熊野町4丁目20の一部、20-2	20070726	個人住宅建設	108.45	無	着工	陣内	
32	桜塚古墳群	南桜塚3丁目128-3	20070726	個人住宅建設	70.14	未確認	慎重工事	陣内	
33	蛍池北遺跡	蛍池北町1丁目141-7	20070802	個人住宅建設	35.64	#	着工	橘田	
34	服部遺跡	曽根東町5丁目61-1の一部	20070802	個人住宅建設	59.22	有	着工	橘田	
35	山ノ上遺跡	宝山町20-27の一部	20070830	個人住宅建設	62.93	#	着工	陣内	
	本町遺跡	本町3丁目132の一部	20070906	個人住宅建設	53.39	有	慎重工事	陣内	基礎深度浅
	新免遺跡	玉井町3丁目153-27	20070913	個人住宅建設	75.56	有	慎重工事	陣内	基礎深度浅
	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目56-4	20070913	個人住宅建設	46.25	無	着工	陣内	
39	桜塚古墳群	中桜塚 3 丁目135	20071018	個人住宅建設	126.92	無	着工	陣内	
10		服部西町3丁目1396の一部	20071015	個人住宅建設	104.28	無	着工	橘田	
	桜塚古墳群	南桜塚1丁目232-1の一部	20071023	個人住宅建設	73.75		着工	陣内	
	穂積遺跡	服部西町2丁目838-4の一部	20071101	個人住宅建設	39.84	無	着工	橘田	
	庄内遺跡	庄内幸町5丁目51-6	20071108	個人住宅建設	57.92	#	着工	橘田	
	原田遺跡	原田元町2丁目71・71-2,3の各一部	20071106	個人住宅建設	72.56	無	着工	陣内	
	蛍池西遺跡	第2.5 2.7 1 1 1 1 − 2,5 0 − 3 1 1 1 1 − 2	20071213	個人住宅建設	42.23	有	着工	橘田	自然流路の



第68図 確認調査地点位置図

2007-01 少路遺跡

調査日:平成19年(2007年)1月4日

調查場所:豊中市春日町1丁目

46-1の一部、59-2

調査対象面積: 80.14 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

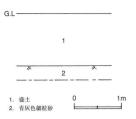
調査の概要:地表下110cmにおいて基盤 層を検出したが、遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第69図 トレンチ掘削状況



第70図 トレンチ断面図

2007-02 山ノ上遺跡

調査日:平成19年(2007年)1月4日

調査場所:豊中市立花町1丁目 調査対象面積:190.64㎡

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所と坪掘りトレンチ1カ所を掘 削し、トレンチ内を精査した。

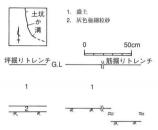
調査の概要:坪掘りトレンチの地表下50 cmにおいて基盤層を検出し、その上

面で遺構を確認した。 調査後の処置:本調査を実施。

(山ノ上遺跡第17次調査)



第71図 トレンチ掘削状況



第72図 トレンチ平面・断面図

調査日:平成19年(2007年)1月25日

調査場所:豊中市曽根南町1丁目152-5

調査対象面積:40.15m²

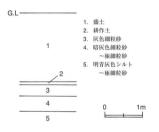
調査の方法:重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下260cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第73図 トレンチ掘削状況



第74図 トレンチ断面図

2007-04 穂積遺跡

調査日:平成19年(2007年)2月1日

調査場所:豊中市服部寿町2丁目1344

調査対象面積: 27.53 m²

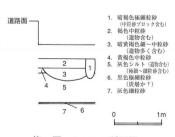
調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下80・100・110・175 cmで遺構面を確認した。

調査後の処置:建物基礎の設計変更によ り、再立会後、慎重工事を指示。



第75図 トレンチ掘削状況



第76図 トレンチ断面図

2007-05 蛍池遺跡

調査日:平成19年(2007年)3月1日

調査場所:豊中市蛍池中町2丁目

68-1の一部

調査対象面積:67.07 m²

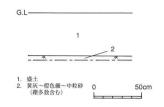
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査

調査の概要:掘削深度(地表下55cm)内 において、遺構・遺物等は確認され なかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第77図 トレンチ掘削状況



第78図 トレンチ断面図

2007-06 山ノ上遺跡

調査日:平成19年(2007年)3月15日

調査場所:豊中市宝山町27の一部

調査対象面積:46.20m²

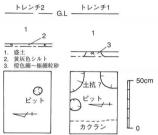
調査の方法: 重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ1では地表下40cm で、トレンチ2では地表下32cmでそれぞれ基盤層を検出し、その直上面 において遺構を確認した。

調査後の処置:建物基礎の設計変更により、再立会後、慎重工事を指示。



第79図 トレンチ掘削状況



第80図 トレンチ平面・断面図

2007-07 太鼓塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)3月15日

調査場所:豊中市永楽荘2丁目150-3

調査対象面積:57.96m²

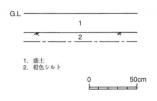
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下20~25cmにおいて基 盤層を検出したが、遺構・遺物等は 確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第81図 トレンチ掘削状況



第82図 トレンチ断面図

2007-08 太鼓塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)3月15日

調査場所:豊中市永楽荘2丁目150-1

調査対象面積:53.98 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下118cmにおいて基盤 層を検出したが、遺構・遺物等は確 認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第83図 トレンチ掘削状況



2007-09 桜井谷窯跡群

調査日:平成19年(2007年)3月15日

調査場所:豊中市上野西2丁目138-32

調査対象面積:92.54m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下180cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



調査日:平成19年(2007年)3月15日

調査場所:豊中市上野東3丁目535

調査対象面積:158.51m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下70~90cmにおいて基 盤層を検出したが、遺構・遺物等は 確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。

2007-11 桜井谷窯跡群

調査日:平成19年(2007年)3月16日

調査場所:豊中市東豊中町3丁目199-1

調査対象面積:165.68 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 及び進入口部の断面観察を実施した。

調査の概要:地表下30cmにおいて基盤層 を検出したが、遺構・遺物等は確認 されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。

2007-12 本町遺跡

調査日:平成19年(2007年)4月5日

調査場所:豊中市本町4丁目76-2

調查対象面積:75.18 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下55cm)内 において、遺構・遺物等は確認され

なかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



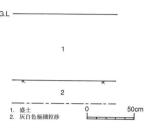
第85図 トレンチ掘削状況



第86図 トレンチ断面図



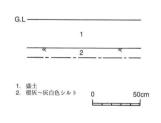
第87図 トレンチ掘削状況



第88図 トレンチ断面図



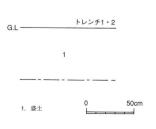
第89図 トレンチ掘削状況



第90図 トレンチ断面図



第91図 トレンチ掘削状況



第92図 トレンチ断面図

2007-13 庄内遺跡

調査日:平成19年(2007年)4月19日

調査場所:豊中市庄内西町4丁目

57-3の一部

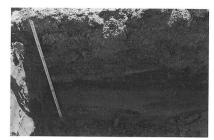
調査対象面積:46.77 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下160cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第93図 トレンチ掘削状況



2007-14 桜井谷窯跡群

調査日:平成19年(2007年)4月19日

調査場所:豊中市熊野町4丁目

247-2,3, 249-1

調査対象面積: 61.28 m²

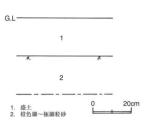
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下20cmにおいて基盤層 を検出したが、遺構・遺物等は確認 されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第95図 トレンチ掘削状況



第96図 トレンチ断面図

2007-15 太鼓塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)4月26日

調查場所:豊中市永楽荘2丁目286

調査対象面積: 88.46 m²

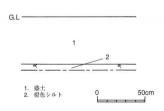
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下45~50cmにおいて基 盤層を検出したが、遺構・遺物等は 確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第97図 トレンチ掘削状況



第98図 トレンチ断面図

2007-16 原田遺跡・原田城跡(北城)

調査日:平成19年(2007年)4月26日

調查場所:豊中市曽根西町4丁目198-1

調查対象面積:55.06m²

調査の方法: 重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:トレンチ1・2ともに掘削 深度(地表下45cm)内において、遺 構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:東側隣接地において堀跡 とみられる遺構を検出していること から、慎重工事を指示。



第99図 トレンチ掘削状況



第100図 トレンチ断面図

2007-17 小曽根遺跡

調査日:平成19年(2007年)5月2日

調查場所:豊中市北条町1丁目297-6

調査対象面積: 36.86m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

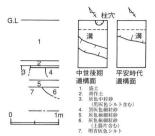
調査の概要:地表下96~100·140cmにお

いて遺構面を検出した。 調査後の処置:本調査を実施。

(小曽根28次)



第101図 トレンチ掘削状況



第102図 トレンチ平面・断面図

2007-18 新免遺跡

調査日:平成19年(2007年)5月2日

調查場所:豊中市玉井町2丁目

185、185-2~5

調査対象面積:112.88 m²

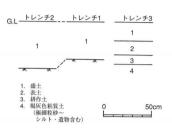
調査の方法: 重機によりトレンチ3か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ3において地表下 45cmで遺構埋土が検出された。

調査後の処置:基礎掘削深度が遺構埋土 に達しないことから、慎重工事を指 示。



第103図 トレンチ掘削状況



第104図 トレンチ断面図

2007-19 勝部東遺跡

調査日:平成19年(2007年)5月10日 調査場所:豊中市勝部1丁目80-6

調査対象面積:302.72m²

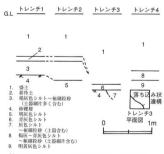
調査の方法: 重機によりトレンチ4か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ3において河川等 の可能性がある落ち込み状遺構を検 出した。

調査後の処置:その他のトレンチにおいては遺構等が確認されなかったことから、着工を指示。



第105図 トレンチ掘削状況



第106図 トレンチ平面・断面図

2007-20 下原窯跡群

調査日:平成19年(2007年)5月10日

調査場所:豊中市南桜塚4丁目90-1

調査対象面積:63.95 m²

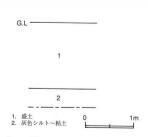
調査の方法:重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下140cmにおいて低湿 地状堆積土を検出したが、遺構・遺 物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第107図 トレンチ掘削状況



第108図 トレンチ断面図

2007-21 桜塚古墳群

調**查日:**平成19年(2007年)5月17日 調**查場所:**豊中市曽根東町1丁目66-3

調査対象面積:70.80m²

調査の方法: 重機により筋掘りトレンチ 1か所、坪掘りトレンチ2か所を掘

削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ3において古墳の

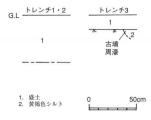
周濠を検出した。

調査後の処置:本調査を実施。

(桜塚古墳群10次)



第109図 トレンチ掘削状況



第110図 トレンチ断面図

2007-22 本町遺跡

調査日:平成19年(2007年)5月31日

調査場所:豊中市本町2丁目39

調査対象面積:53.87m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

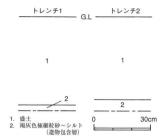
調査の概要:地表下45cmにおいて遺物包

含層を検出した。

調査後の処置:建物の基礎掘削深度は盛 土内に収まることから、着工を指示。



第111図 トレンチ掘削状況



第112図 トレンチ断面図

調査日:平成19年(2007年)6月7日

調査場所:豊中市岡町北1丁目45-3,4

調査対象面積:90.40m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下70cmにおいて基盤層 を検出したが、大石塚古墳に関連す るような遺構等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第113図 トレンチ掘削状況



第114図 トレンチ断面図

2007-24 新免遺跡

調査日:平成19年(2007年)6月14日

調査場所:豊中市末広町1丁目

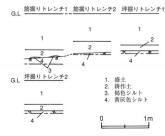
調査対象面積:307.22m² 40、40-2,3

調査の方法: 重機により筋掘りトレンチ2 か所、坪掘りトレンチ2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:いずれのトレンチからも地 表下65~95cmにおいて基盤層を検出 したが、遺構・遺物等は確認されな



第115図 トレンチ掘削状況



第116図 トレンチ断面図

2007-25 原田遺跡

調査日:平成19年(2007年)6月14日

調査場所:豊中市原田元町2丁目66-4

調査対象面積:70.06m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

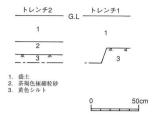
調査の概要:地表下35~40cmにおいて基 盤層を検出したが、遺構・遺物等は

確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第117図 トレンチ掘削状況



第118図 トレンチ断面図

2007-26 山ノ上遺跡

調査日:平成19年(2007年)6月14日

調査場所:豊中市宝山町6-9

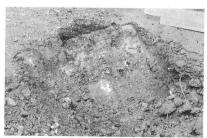
調査対象面積: 49.32 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

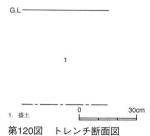
調査の概要:掘削深度(地表下50cm)内 において、遺構・遺物等は確認され

なかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第119図 トレンチ掘削状況



2007-27 庄内遺跡

調査日:平成19年(2007年)6月14日

調査場所:豊中市庄内西町4丁目59-6.9

調查対象面積:64.38m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下130cm) 内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第121図 トレンチ掘削状況



2007-28 穂積遺跡

調査日:平成19年(2007年)7月5日

調查場所:豊中市服部元町1丁目51-2

調査対象面積:57.98 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下165cm) 内において、遺構・遺物等は確認されなかった。



第123図 トレンチ掘削状況



第124図 トレンチ断面図

2007-29 穂積遺跡

調査日:平成19年(2007年)7月5日

調查場所:豊中市服部元町1丁目52

調查対象面積:82.46m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下150cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第125図 トレンチ掘削状況



第126図 トレンチ断面図

2007-30 蛍池北遺跡

調査日:平成19年(2007年)7月19日

調查場所:豊中市蛍池北町1丁目141-5

調査対象面積:47.71 m²

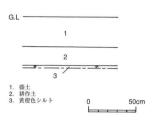
調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ1・2ともに地表下53~58cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第127図 トレンチ掘削状況



第128図 トレンチ断面図

2007-31 熊野田遺跡

調査日:平成19年(2007年)7月26日

調査場所:豊中市熊野町4丁目

20の一部、20-2

調査対象面積:108.45 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

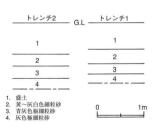
調査の概要:掘削深度(地表下140cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第129図 トレンチ掘削状況



第130図 トレンチ断面図

2007-32 桜塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)7月26日 調査場所:豊中市南桜塚3丁目128-3

調査対象面積:70.14m²

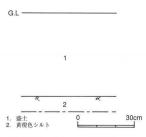
調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下30cmにおいて基盤層 を検出したが、遺構は確認されなかった。

調査後の処置:盛土内から遺物片が見られたことから周辺の試掘結果を考慮し、再立会後に慎重工事を指示。



第131図 トレンチ掘削状況



第132図 トレンチ断面図

2007-33 蛍池北遺跡

調査日:平成19年(2007年)8月2日

調査場所:豊中市蛍池北町1丁目141-7

調査対象面積: 35.64m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

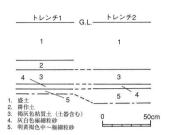
調査の概要:掘削深度(地表下75・85cm) 内において、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第133図 トレンチ掘削状況



第134図 トレンチ断面図

2007-34 服部遺跡

調査日:平成19年(2007年)8月2日

調査場所:豊中市曽根東町 5 丁目 61-1の一部

調査対象面積:59.22 m²

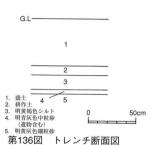
調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ1・2ともに地表 下80cmにおいて遺物を含む明青灰中 粒砂層を検出したが、、遺構等は確認 されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第135図 トレンチ掘削状況



2007-35 山ノ上遺跡

調査日:平成19年(2007年)8月30日

調査場所:豊中市宝山町20-27の一部

調査対象面積: 62.93 m²

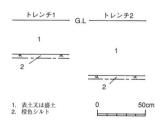
調査の方法:重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ1では地表下36 cm、トレンチ2では地表下58cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第137図 トレンチ掘削状況



第138図 トレンチ断面図

2007-36 本町遺跡

調査日:平成19年(2007年)9月6日

調査場所:豊中市本町3丁目132の一部

調査対象面積:53.39m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

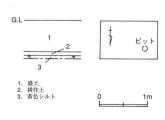
調査の概要:地表下72cmにおいて基盤層 を検出し、その上面で遺構(小ピット)を確認した。

ト)を帷認した。 関本後の処置・建物の

調査後の処置:建物の基礎掘削深度は盛 土内におさまることから、再立会後、 慎重工事を指示。



第139図 トレンチ掘削状況



第140図 トレンチ平面・断面図

2007-37 新免遺跡

調査日:平成19年(2007年)9月13日

調査場所:豊中市玉井町3丁目153-27

調査対象面積:75.56m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ2において地表下 35cmで遺物包含層を、地表下62cmで 基盤層を検出し、その上面で遺構を 確認した。

調査後の処置:基礎工事は盛土内に収まるため、再立会後に慎重工事を指示。

調査日:平成19年(2007年)9月13日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目56-4

調査対象面積:46.25 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下120cm) 内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第141図 トレンチ掘削状況





第143図 トレンチ掘削状況



第144図 トレンチ断面図

2007-39 桜塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)10月18日

調査場所:豊中市中桜塚3丁目135

調査対象面積:126.92 m²

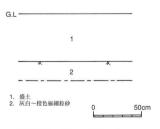
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1か所を掘削し、トレンチ内を精査 した。

調査の概要:地表下45~55cmにおいて基 盤層を検出したが、遺構・遺物等は 確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第145図 トレンチ掘削状況



第146図 トレンチ断面図

2007-40 穂積遺跡

調査日:平成19年(2007年)10月25日

調査場所:豊中市服部西町3丁目

1396の一部

調査対象面積:104.28 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下180cmにおいて近世 末期の遺構面を検出したが、地表下 250cmまで明確な遺構等は確認されな



第147図 トレンチ掘削状況



2007-41 桜塚古墳群

調査日:平成19年(2007年)11月1日

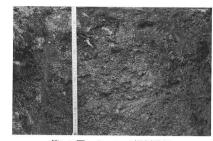
調査場所:豊中市南桜塚1丁目232-1

調査対象面積:73.75 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査

調査の概要:地表下42cmにおいて基盤層 を検出したが、古墳に伴う遺構・遺 物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第149図 トレンチ掘削状況



1. 盛土 2. 橙~灰白色中~細粒砂 0 50cm

第150図 トレンチ断面図

2007-42 穂積遺跡

調査日:平成19年(2007年)11月8日

調査場所:豊中市服部西町2丁目838-4

調査対象面積:39.84m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

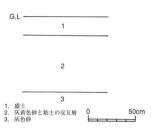
調査の概要:掘削深度(地表下80cm)内において、遺構・遺物等は確認され

なかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第151図 トレンチ掘削状況



第152図 トレンチ断面図

2007-43 庄内遺跡

調査日:平成19年(2007年)11月8日

調査場所:豊中市庄内幸町5丁目51-6

調査対象面積:57.92 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所 を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下160cm) 内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第153図 トレンチ掘削状況



第154図 トレンチ断面図

2007-44 原田遺跡

調査日:平成19年(2007年)12月6日

調査場所:豊中市原田元町2丁目 71・71-2,3の一部

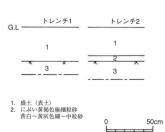
調査対象面積:72.56m²

調査の方法: 重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下35cmにおいて基盤層 を検出したが、遺構・遺物等は確認 されなかった。



第155図 トレンチ掘削状況



第156図 トレンチ断面図

2007-45 蛍池西遺跡

調査日:平成19年(2007年)12月13日

調査場所:豊中市蛍池西町1丁目11-28

調査対象面積: 42.23 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所

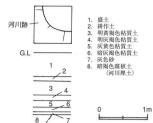
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下90cmで包含層を、地 表下130cmで自然流路を検出したが、

他に明確な遺構は確認されなかった。 調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第157図 トレンチ掘削状況

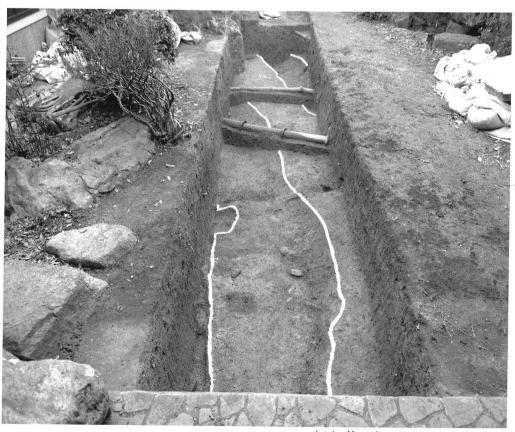


第158図 トレンチ平面・断面図

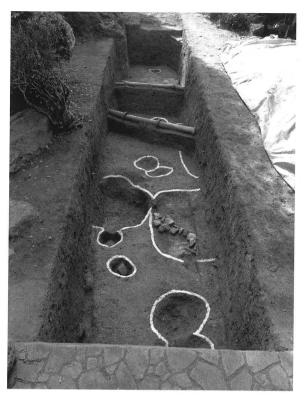
図 版



(1) 第1トレンチ2層上面



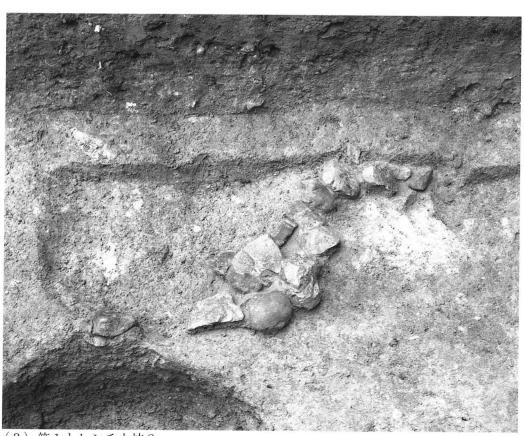
(2) 第1トレンチ3-1層上面





(1) 第1トレンチ3-4層上面

(2) 第1トレンチ4層上面



(3) 第1トレンチ土坑2

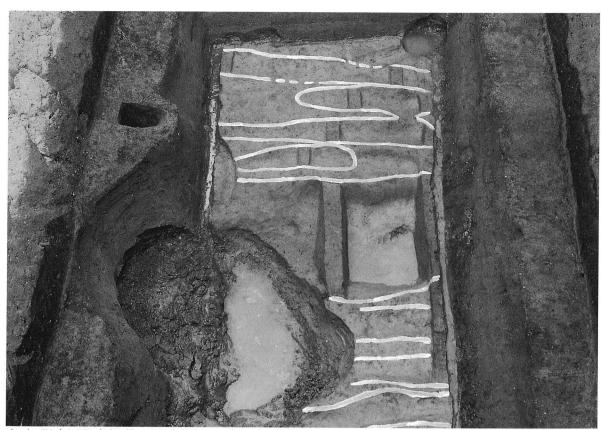


(1) 第2トレンチ全景



(2) 第2トレンチ集石土坑

义

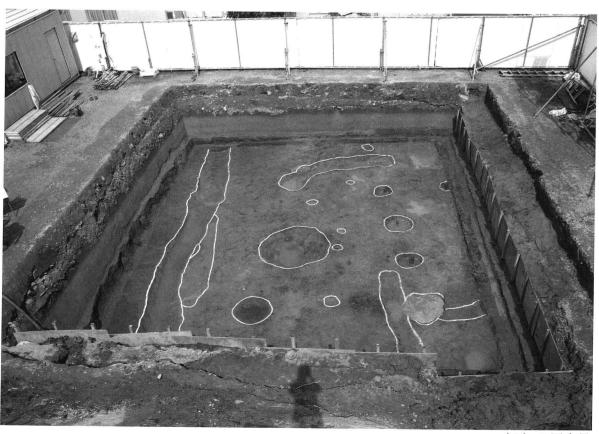


(1)調査区北半部 第2面 完掘状況 (北西から)

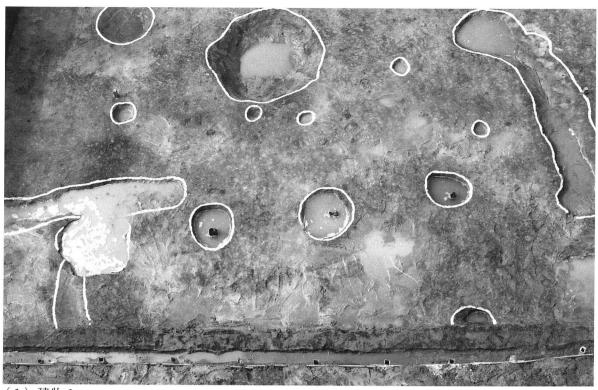




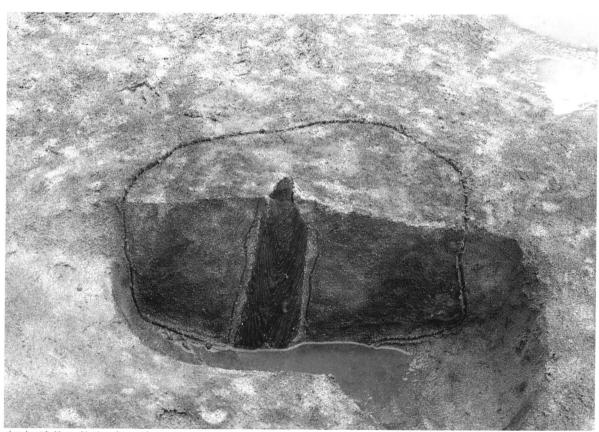
(1) 1区全景



(2) 2区全景



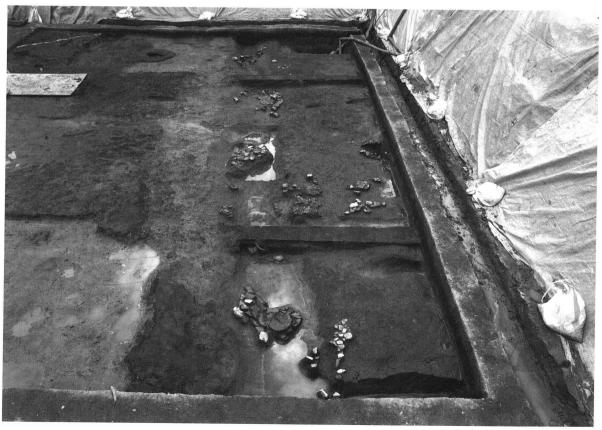
(1)建物1



(2) 建物 1 柱穴 (SP01)



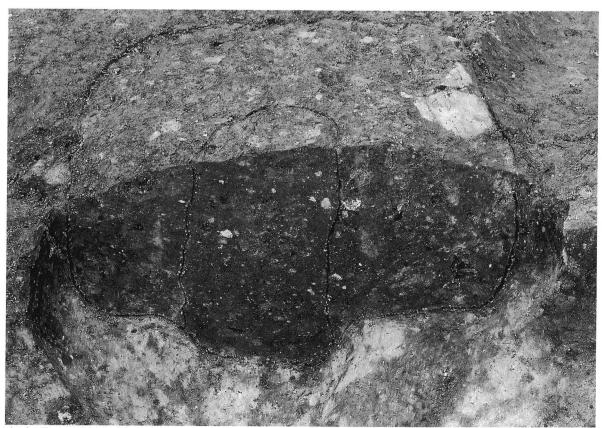
(1)土坑3遺物出土状況



(2) 溝3遺物出土状況



(1)調査区全景(南から)



(2) 柱穴1断面(東から)

図

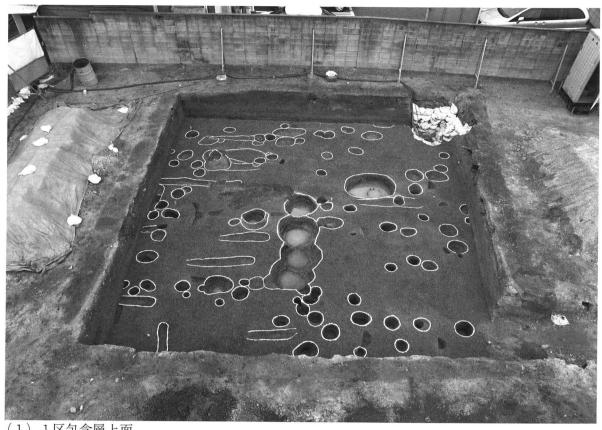


(1) 焼土検出状況 (南西から)



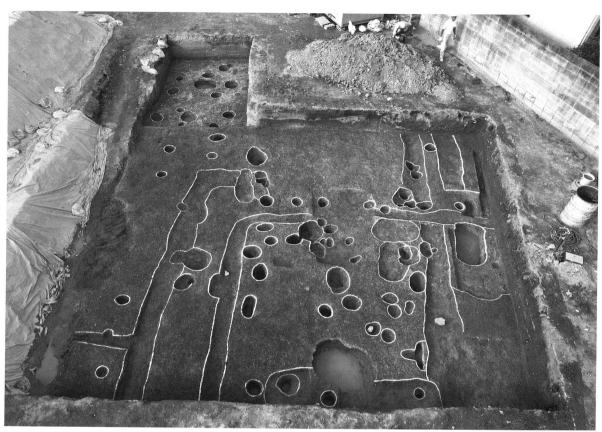
(2) 遺物出土状況 (調査区南壁)

査



(1) 1区包含層上面





(1) 2区包含層上面



(2) 2区基盤層上面

査



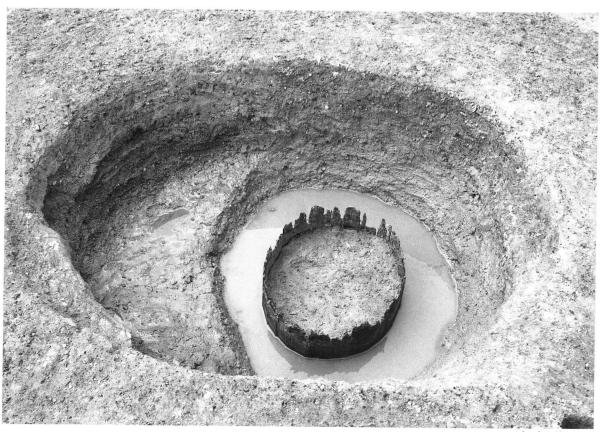
(1) SP112遺物出土状況



(2) 土器群3遺物出土状況



(1) S P 190遺物出土状況



(2) 井戸1



